

平成 2 3 年 度

**教育に関する事務の管理及び執行状況
の点検・評価に関する報告書
(平成 2 2 年度対象)**

平成 2 3 年 1 1 月

帯 広 市 教 育 委 員 会

目 次

| | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 点検及び評価の基本的な考え方 | 1 |
| | (1) 趣旨 | 1 |
| | (2) 対象 | 1 |
| | (3) 方法 | 1 |
| | (4) 学識経験者の知見の活用 | 1 |
| 2 | 点検及び評価の結果 | 3 |
| | (1) 次代を担う人づくり | 3 |
| | (2) とともに学びきずなを育む地域づくり | 11 |
| | (3) 基本目標を実現するための基盤づくり | 15 |
| 3 | 教育に関する学識経験者の意見 | 25 |
| | 参考資料 | 27 |
| | 平成22年度教育委員会の活動状況 | 28 |
| | 平成22年度教育行政執行方針 | 33 |
| | 平成22年度予算決算 | 39 |
| | 平成22年度における主な取組み一覧 | 41 |
| | 成果指標の推移 | 47 |

1 点検及び評価の基本的な考え方

(1) 趣旨

効果的な教育行政の推進をはかるとともに、市民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき、教育の取組みについて点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、あわせて市民に公表するものです。

(2) 対象

「帯広市教育基本計画」の体系にしたがい、平成22年度に実施した取組みを対象として、点検及び評価を実施しました。

なお、「帯広市教育基本計画」においては、福祉や子育てなど他の分野と幅広く協力しながら取組みをすすめることとしていることから、教育委員会の取組みに加え、関係部課等の取組みについても、点検及び評価の対象としています。

(3) 方法

点検及び評価は、第六期帯広市総合計画の政策・施策評価と整合をはかりつつ、「帯広市教育基本計画」の「個別目標」及び「基本方向」ごとに行いました。具体的には、成果指標の達成状況や平成22年度における主な取組み内容などを踏まえながら、平成22年度における取組みの成果と、課題及び今後の方向性の2つの観点から、点検及び評価を行いました。

(4) 学識経験者の知見の活用

学識経験者からの点検及び評価に関する意見や助言をいただき、教育委員会が点検及び評価を行うに当たって客観性を確保するとともに、今後の取組みに向けた活用をはかります。

参考1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

| | |
|--|--|
| (教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等) | |
| 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。 | |
| 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。 | |

図1 帯広市教育基本計画体系図

| 基本目標 | 個別目標 | 展開方策 |
|---------------------|-----------------------|--|
| 1 次代を担う人づくり | 1-1 知識・技能の習得 | (1) 子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進 (2) 個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進 (3) 職業に関する教育・学習活動の推進 (4) 高度情報化に対応した教育・学習活動の推進 |
| | 1-2 豊かな心の育成 | (1) 子どもの社会性の育成 (2) 豊かな情操の育成と生きがいづくり |
| | 1-3 健やかな体づくり | (1) 健やかな体を育むスポーツ活動等の推進 (2) 食育の推進と学校給食の充実 |
| | 1-4 人間を尊重し自然と共生する人づくり | (1) 人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進 (2) グローバル化に対応した教育・学習活動の推進 (3) 環境に関する教育・学習活動の推進 |
| 2 とともに学びきずなを育む地域づくり | 2-1 ふるさとの理解の促進 | (1) 子どものふるさと教育の推進 (2) 地域に関する学習活動の推進 |
| | 2-2 きずなづくり・まちづくり | (1) まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進 (2) にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興 |

| | 基本方向 | 展開方策 |
|-------------------|--------------------|---|
| 基本目標を実現するための基盤づくり | 1 学校・家庭・地域の連携 | (1) 開かれた学校づくり (2) 家庭教育への支援 (3) 家庭や地域による教育支援の推進 |
| | 2 教育を支える人材の育成 | (1) 教員の人間力・指導力の向上 (2) 地域の人材の発掘・育成・活用 |
| | 3 教育環境の充実 | (1) 学校教育の環境整備 (2) 社会教育の環境整備 (3) 保育・体験活動の環境整備 |
| | 4 教育機会の確保 | (1) 就学・進学への支援 (2) 健やかな発達の支援 |
| | 5 よりよい教育のためのしくみづくり | (1) 魅力ある学校づくりの推進 (2) 学校教育のしくみの工夫改善 (3) 社会教育施設の利用の促進 (4) 地域の実情に応じた教育行政の推進 |

2 点検及び評価の結果

(1) 次代を担う人づくり

| | |
|---|----------|
| 個別目標1 - 1 | 知識・技能の習得 |
| 市民が生涯にわたり自己を高めるとともに、時代の変化に適応し、自立して生きることができるよう、必要な知識・技能を習得することができる教育・学習活動をすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| 取組みの成果 | <p>(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、少人数指導の充実や指導方法の工夫改善など、各学校で学校改善プランにもとづく取組みをすすめており、標準学力検査の目標値は下回りましたが、全国学力・学習状況調査の結果からは、家庭での復習や間違えた問題を勉強しなおす児童生徒が増えたほか、平均正答率に改善の傾向がみられました。また、図書館での調べ学習や百年記念館からの講師派遣など、学校と社会教育施設の連携をすすめました。</p> <p>(2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、各小学校区で開催されているコミュニティ講座等の充実などにより、講座等の参加者数が目標値を上回りました。</p> <p>(3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、帯広南商業高校では、北海道高等学校商業教育フェアへの参加により、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上がはかられたほか、2年生全員がインターンシップを実施しました。また、就職率や検定3種目以上1級取得率は目標値を達成しました。</p> <p>(4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、インターネットサイトからの有害情報の危険性についての情報提供などを行いました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進」については、基礎基本の定着に不十分な面がみられることから、少人数指導など個に応じたきめ細かな指導の充実や指導方法の工夫改善、家庭と連携した取組みを引き続きすすめる必要があります。</p> <p>(2)「個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進」については、学習情報を幅広く提供するとともに、地域の歴史学習や防災教育など社会のニーズに応じた学習活動を充実させていく必要があります。</p> <p>(3)「職業に関する教育・学習活動の推進」については、帯広南商業高校において、実践的な教育を充実させるため、企業や大学・他の高校との連携を強化していく必要があります。</p> <p>(4)「高度情報化に対応した教育・学習活動の推進」については、関係団体や事業者、保護者などと連携し、有害な情報の排除などの対応をすすめていくとともに、情報モラルの育成に引き続き取り組んでいく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|-------------------------------|---------|------------------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 標準学力検査の目標基準到達観点数（観点） | 26 | 26 28 | 42 |
| 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数（人） | 22,590 | 26,656 23,000 | 23,000 |
| 帯広南商業高等学校の就職率（％） | 100.0 | 100.0 100.0 | 100.0 |
| 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率（％） | 46.7 | 62.6 48.5 | 75.0 |

参考2：主な取組みの内容

◆ 学力向上に向けた取組み

平成22年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生で実施）の結果では、帯広市の児童生徒の平均正答率は全国平均を下回り、全道平均と同程度となっていますが、小・中学校とも全国平均との差が昨年度よりも縮まるなど改善の傾向が見られます。子どもたちの学力向上に向けて、各学校では学校改善プランに基づき、少人数指導など個に応じたきめ細かな指導の充実や指導方法の工夫改善をすすめるとともに、家庭への情報提供を通して家庭学習の啓発などをすすめました。



複数の指導者による少人数指導

◆ 北海道高等学校商業教育フェア

道内高等学校の商業に関する学科で学ぶ生徒が、商品の開発や販売に関する学習成果の発表を行い、他校の生徒や道民との交流をとおりコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高めるとともに、将来の産業界を担うスペシャリストの育成と商業教育の活性化を目指した事業です。平成22年度は道内29校から生徒128人が参加しました。

帯広南商業高校では、購買局の生徒が、土幌高校の生徒と共同で開発したウインナーとチーズを販売したほか、クッキング部の生徒と市内商店が共同開発した菓子パンと焼き菓子の計3種類を販売しました。



帯広南商業高校の生徒による販売

| | |
|--|---------|
| 個別目標1 - 2 | 豊かな心の育成 |
| 子どもたちが、他の人々と協調しながら、自らを律し、社会においてよりよく生きる力を身につけるとともに、市民が生涯にわたりゆとりやうるおいを実感して生活することができるよう、豊かな心の育成に取り組みます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| 取組みの成果 | <p>(1)「子どもの社会性の育成」については、小中学校において、不登校生徒の復帰率は目標値に及ばないものの、生徒指導アドバイザーと学校の連携の強化や、スクールソーシャルワーカー等の活用による相談体制の定着などにより、昨年度よりも復帰率が上昇するなど、一定の効果をあげています。また、子どもの居場所づくり事業は、地域ボランティアやNPO法人の協力を得ながら、読み聞かせや工作、調理など多様な体験活動を提供しました。平成22年度は、子どもの居場所づくり事業を新たに実施する学校が2校増え、市内26校中15校での実施となり、道内でも高い実施率となっています。参加児童数も17,477人と目標値を上回りました。</p> <p>(2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、子どもの読書活動の充実のため、第二期帯広市子どもの読書活動推進計画を策定したほか、市図書館と学校図書館の連携や学校図書館の蔵書の充実、学校図書館ボランティアの活用などにより、小・中学校図書館の貸出冊数が目標値を上回りました。また、市民主体の芸術・文化活動の促進を図るため、市民文藝の発行や市民芸術祭の開催、帯広市民バレエ公演「くるみ割り人形」の支援などを行うとともに、「ブダペスト祝祭管弦楽団公演」など市民に良質な芸術・文化にふれる鑑賞機会を提供しました。また、児童会館において、人形劇公演や児童劇団の公演活動を行い、児童生徒の情操の育成をはかりました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「子どもの社会性の育成」については、不登校の低年齢化や要因の複雑化などから学校への復帰が依然として課題となっており、今後も保護者と緊密に連携しながら、支援体制の一層の充実や関係機関との連携、個に応じた相談活動の充実をはかる必要があります。また、児童生徒の社会性の育成のため、引き続き道德教育の充実や体験活動機会の提供に取り組んでいく必要があります。</p> <p>(2)「豊かな情操の育成と生きがいづくり」については、文化団体等が小規模化している傾向がみられ、活動の継続や発表機会の確保が難しくなっていることから、引き続きこれらの団体や個人の活動の支援を充実させていく必要があります。また、鑑賞事業の入場者数が目標値を下回っていることから、市民ニーズの把握や質の高い事業の実施、PR方法の工夫などに努め、鑑賞機会の充実をはかる必要があります。さらに、帯広市子どもの読書活動推進計画に基づき、市図書館と学校図書館、家庭などが連携した取組みをすすめるとともに、市民の読書活動の推進のため、市図書館や学校図書館の蔵書を計画的に整備していく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|-----------------------|---------|------------------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 不登校生徒の復帰率（％） | 30.8 | 36.6 42.5 | 65.0 |
| 子どもの居場所づくり参加児童数（人） | 7,575 | 17,477 16,300 | 31,100 |
| 小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数（冊） | 9.1 | 10.7 9.4 | 11.8 |
| 中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数（冊） | 1.6 | 2.6 1.7 | 2.4 |
| 鑑賞事業の入場者数（人） | 34,098 | 25,096 38,000 | 38,000 |

貸出冊数は年間の冊数

参考2：主な取組みの内容

◆ 帯広市民バレエ公演「くるみ割り人形」

教育委員会では、文化団体が行う市民の主体的な芸術・文化活動を支援しています。平成22年度は、地域のバレエの質の向上・普及を目指すため、オーケストラやバレエ振付、舞台監督、出演者、美術など、市民関係者を総動員し、12月11日・12日に第2回帯広市民バレエ公演「くるみ割り人形」を開催しました。会場には、2日間で2,000人を超える観客が訪れ、市民の日頃の研鑽成果を鑑賞しました。



帯広市民バレエ公演
「くるみ割り人形」

◆ 子どもの読書活動の推進

平成22年度に「第二期帯広市子どもの読書活動推進計画」を策定し、図書館や学校、家庭での子どもの読書活動機会の充実や読書環境の整備などを推進しています。市図書館と学校図書館との連携をすすめる取組みとして、朝読書や調べ学習用にテーマ毎の貸出セットを学校に配送する「ぶっくーる便」などの事業を実施しているほか、地域での活動支援として、おはなし会などのボランティアを養成する「語り手育成講習会」、学校図書館運営委員が学校図書館の整理を介して情報交換を行う「学校図書館クリニック」など各種講演会や研修会を開催しました。



語り手育成講習会

| | |
|--|----------|
| 個別目標1 - 3 | 健やかな体づくり |
| 市民が生涯にわたり心身ともに健やかな生活を送ることができるよう、健やかな体づくりに取り組みます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| 取組みの成果 | <p>(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、全国的に児童生徒の体力や運動能力の低下傾向がみられるなか、学校における体育・健康に関する指導の充実や体力向上の取組みにより、帯広市体力・運動能力実態調査において、小中学校ともに全道平均を上回る種目が多くなりました。また、スポーツ大会、スポーツ教室、講習会の参加者数は目標値を下回りましたが、スポーツ施設における大会等の参加者数は前年を大きく上回るなど、市民のスポーツ活動の充実をはかりました。</p> <p>(2)「食育の推進と学校給食の充実」については、食育検討委員会において、児童生徒、保護者向けの啓発リーフレットや食育レシピ集を作成するとともに、帯広市PTA連合会との共催で教職員、保護者向けの講演会を開催しました。また、学校栄養職員による給食時や教科における指導や給食だよりを活用した情報提供を行ったほか、食育フェスティバルでは、学校給食について理解を深めてもらうため、給食の試食会やパネル展を行うなど、食育に関する取組みをすすめました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「健やかな体を育むスポーツ活動等の推進」については、児童生徒の体力向上が、日常的な運動の機会や生活習慣と密接な関係を持っていることから、家庭や地域と連携した取組みをすすめていくとともに、帯広市体力・運動能力実態調査を継続して実施し、調査結果を各学校の具体的な改善の取組みに反映させていく必要があります。また、スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数が目標値を下回ったことから、小学校における体育館開放や地域の体育指導委員によるスポーツ教室の周知を積極的にすすめていくとともに、総合型地域スポーツクラブの設立や体育指導委員との連携強化、地域におけるスポーツイベントの開催などにより、身近な場所でスポーツを楽しむ環境づくりをすすめていく必要があります。</p> <p>(2)「食育の推進と学校給食の充実」については、天候不順の影響で、給食の地場産野菜の導入率が目標値を下回りました。地場産野菜の安定供給が課題となっていることから、関係団体等と連携した供給体制づくりをすすめるなど、安全安心な食材の確保に努める必要があります。また、児童生徒が食に関する正しい知識や食習慣を身に付けるため、家庭や地域と連携した取組みを促進させていくとともに、学校訪問などによる指導の充実をはかる必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|---------------------------|---------|------------------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数(人) | 35,677 | 70,414 87,000 | 87,000 |
| 総合型地域スポーツクラブの設置数(か所) | 2 | 3 3 | 8 |
| 学校給食における地場産野菜の導入率(%) | 55.7 | 53.0 66.7 | 70.0 |

参考2：主な取組みの内容

◆ 食育の取組み

子どもたちが食に関する理解と適切な判断力を養い、正しい食習慣を身に付けるため、学校では、家庭科や総合的な学習の時間、給食時間などにおいて指導を行っています。また、平成18年度から食育検討委員会を設置し、平成22年度は、教員や帯広市PTA 連合会との連携により、食育レシピ集の作成や教職員や保護者向けの食育講演会を実施しました。学校給食共同調理場では、「帯広市食育フェスティバル」において、給食の人気メニューである「カレーライス」の試食会やパネル展示を行うなど、学校給食に対する理解を深めました。



食育フェスティバルでの
給食試食会

◆ スポーツ教室の開催

市民の健康・体力づくりや、心の健康・いきがいのため、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、生涯スポーツの振興に取り組んでいます。平成22年度は、市民ゴルゲートなどのニュースポーツや気軽に参加することができるスポーツを紹介するため、各種教室を開催したほか、帯広市文化スポーツ振興財団が年間を通じて行う教室や市内に3団体ある総合型地域スポーツクラブが開催する教室、体育指導委員が開催する教室などを実施し、延べ54,753人の市民が参加しました。



ゴルゲート大会

| | |
|---|-------------------|
| 個別目標1 - 4 | 人間を尊重し自然と共生する人づくり |
| 誰もが人間として尊重され、共生することができる社会づくりや、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに資するため、市民が必要な知識などを習得することができる教育・学習活動をすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| 取組みの成果 | <p>(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、学校の教育活動全体を通じて、人権に関する学習や福祉体験活動などに取組みました。また、講演会や講座の開催、情報誌の発行を通じて、ユニバーサルデザイン(UD)、福祉、男女共同参画の啓発に取組みました。</p> <p>(2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、国際理解教育指導助手や外国語指導助手等を各学校に派遣しているほか、国際交流員が各学校を訪問し、自国の文化紹介を行うなど、児童生徒の諸外国の言語・文化等への理解やコミュニケーション能力の育成をはかりました。帯広南商業高校においては、専任の英語指導助手による指導やマディソン市への生徒派遣研修を実施するなど、国際的な視野を持った人材の育成に取組みました。また、市民の国際交流等を推進するため、国際姉妹・友好都市であるスワード市・朝陽市への高校生相互派遣事業や在住外国人との交流機会の充実をはかりました。</p> <p>(3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、活力ある学校づくり支援事業における「環境教育支援」で、校区内の自然環境を活用した体験活動を行うなど、各学校の特色を生かした取組みを展開したほか、教材開発・活用や社会教育施設と連携した環境教育の充実をはかりました。また、省エネ・省資源や環境美化など、環境にやさしい活動に取組む学校数が目標値を達成しました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進」については、子どもから高齢者まで、幅広い市民の意識啓発に向けて、講演会や講座の開催、情報誌の発行などの取組みを引き続きすすめていく必要があります。また、UDに関する講座等への参加者数が目標値を下回ったことから、講座の実施方法や周知方法の見直しを行い、受講対象や受講機会の拡大に努めていく必要があります。</p> <p>(2)「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、国際化社会に即応した国際感覚豊かな人材を育成するため、小・中学校における外国語教育の充実をはかっていく必要があります。また、国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数は、前年度に比べ増加傾向にありますが、目標値を下回っていることから、より一層の周知をはかる必要があります。</p> <p>(3)「環境に関する教育・学習活動の推進」については、環境モデル都市にふさわしい環境教育を推進するため、学校と社会教育施設などが連携した学習プログラムの確立など、学校における環境教育を一層充実させるとともに、環境に関する市民の学習機会を充実していく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|-------------------------|----------------------|----------------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| UDに関する講座等への参加者数(人) | 234 (H17-19 平均) | 98 234 | 370 |
| 国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数(人) | 8,465 (H17-19 平均) | 7,898 8,585 | 9,350 |
| 環境にやさしい活動実践校数(校) | 10 | 17 17 | 41 |

参考2：主な取組みの内容

◆ 小・中学校における外国語教育

外国人とのふれあいを通じた、児童生徒の発達段階に応じた諸外国の言語・文化等への体験的な理解やコミュニケーション能力の育成を目的として、平成22年度は、小学校に国際理解教育指導助手2名、中学校に外国人講師3名を派遣し、小学校外国語活動及び中学校外国語科の指導の充実をはかりました。小学校では、学級担任と国際理解教育指導助手の複数指導による授業を行い、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うための授業を行いました。



国際理解教育指導助手との
外国語活動の授業

◆ 環境にやさしい活動実践校

児童生徒を通じて、学校から家庭へ、さらには地域へと環境保全意識・活動の拡大を図るため、ISO14001の趣旨や手順を参考に、学校でできる環境にやさしい活動のしくみをつくり、みんなで取り組んでいる学校を市及び教育委員会が独自に「環境にやさしい活動実践校」として認定しています。各学校では、節電や節水、廃てんぷら油回収などの活動に取り組んでいます。平成22年度は、新規に3校を認定し、全認定校は17校(小学校8校・中学校9校)となりました。



環境にやさしい活動実践校の活動例

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

| | |
|--|------------|
| 個別目標2 - 1 | ふるさとの理解の促進 |
| <p>市民がふるさとの風土に学び、自己を確立するとともに、ふるさとの誇りや愛着などを高めることができるよう、ふるさとの理解や再発見を促進する教育・学習活動をすすめます。</p> | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| 取組みの成果 | <p>(1)「子どものふるさと教育の推進」については、「郷土体験学習」「自然体験学習」を引き続き実施し、ふるさとの理解を深めたほか、アイヌ民族の歴史や文化などについての理解を促すため、授業用に「アイヌ民族の理解促進指導用教材資料」を作成し、学校での活用をはかりました。</p> <p>(2)「地域に関する学習活動の推進」については、高等教育機関や試験研究機関などとの連携や市民との協働により、地域に関心を持ち、地域の特徴や課題を理解してもらえるようなテーマを設け、市民大学講座を開講しました。また、百年記念館では、地域の歴史や自然を学習する博物館講座や帯広出身の書家の作品を展示する収蔵作品展などを開催したほか、アイヌ民族情報文化センター「リウカ」や埋蔵文化財センターで、アイヌ文化や埋蔵文化財に関する学習の場を提供しました。図書館では、文学ゆかりの地をフィールドとした研修会「ふるさと再訪」などを実施しました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「子どものふるさと教育の推進」については、さらに効果的な教育活動を推進するため、郷土体験学習や自然体験学習の学習目的についての理解を深められるよう、学習内容の充実、改善をすすめるとともに、事前、事後学習を通じた各教科との関連をはかる必要があります。また、子どもたちがふるさとについてより一層体験的に理解できるよう、学校と社会教育施設が連携した学習活動を推進していく必要があります。</p> <p>(2)「地域に関する学習活動の推進」については、地域について学ぶ講座等への参加者数が目標値を下回りました。多くの市民にふるさとやまちづくりに関する講座に参加してもらうため、参加者の興味やニーズを踏まえた講座内容等の充実や周知方法の工夫を行っていく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|----------------------|---------|---------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 地域について学ぶ講座等への参加者数(人) | 4,053 | 2,871 | 4,000 |
| | | 4,000 | |

参考2：主な取組みの内容

◆ 子どものふるさと教育の推進

ふるさと帯広市の環境・自然・農業等に直接触れ、体験的に学ぶ教育プログラムを充実させることにより、郷土と自然を愛する、心豊かな児童生徒の育成を図ることを目的に、小学校4年生では郷土体験学習を、中学校2年生では自然体験学習を実施しました。帯広市の豊かな自然を体験したり、見学したりすることで、ふるさとの素晴らしさを全身で味わいました。また、3、4年生の社会科で使用する副読本や、アイヌ指導資料を作成するなど、郷土学習の充実をはかりました。



中学2年生の魚釣り体験
(自然体験学習)

◆ 市民大学講座

十勝・帯広という身近な地域に関心を持ち、地域特有の優位点や問題点を理解してもらうことを目的に、市民大学講座を開講しています。平成22年度はテーマごとに組んだ講義を34講座と15ゼミナールで合計84日間開講し、1,173人が参加しました。市民大学講座では学習分野の専門性を高めながらも、受講された皆さんが日常生活や地域活動に役立てられる学習内容を提供しており、とかちプラザでの講義を中心に、双方向形式の話合い学習、帯広の森での野外学習、地域の魅力を再発見するバス学習などを取り入れています。



足寄動物化石博物館での
テーブルワーク(バス学習)

| | |
|---|--------------|
| 個別目標2 - 2 | きずなづくり・まちづくり |
| 地域におけるきずなづくりや、市民主体のまちづくりに資するため、まちづくりへの市民参画やまちのにぎわい・交流を促進する学習・文化・スポーツ活動をすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| 取組みの成果 | <p>(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、生涯学習コーディネーター養成課程の修了者で構成する「生街楽集の学舎」及び高等教育機関と協力し、まちづくりのための学習メニュー「おびひろ地元学」を実践したほか、まちづくりの担い手育成研修会を開催するなど、市民のまちづくりへの参画を促進しました。また、青少年リーダー養成事業参加者数は、プログラムの改善などにより目標値を上回ったほか、ボランティア養成講座の充実や学習成果を生かせる環境づくりに力を入れた結果、社会教育施設におけるボランティア活動などが活発化し、学習成果の活用事例数が目標値を上回りました。</p> <p>(2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、市民芸術祭や市民ギャラリー企画展など、市民が主体的に参加できる芸術・文化活動を通じて、発表者同士や鑑賞者との交流機会の提供に取り組んでおり、発表・活動の場への参加団体数は、目標値を上回りました。また、各種スポーツ大会の観客数は、目標値を下回ったものの、明治北海道十勝オーバルでスピードスケートの国際大会が、昨年度に引き続き開催されたほか、全国・全道大会が定期的な開催になりつつあることから、前年度を大きく上回りました。スポーツ合宿団体数は、誘致活動や受入態勢を強化した結果、スケート合宿を中心に順調に増加しており、目標値を達成しました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進」については、まちづくりを担うボランティアの育成や研修に引き続き取り組むとともに、学習成果の活用機会を充実させていく必要があります。また、中・高校生リーダー育成事業参加者数が減少している傾向にあることや若者の社会参画が課題となっていることから、参画を促進するしくみづくりを行っていく必要があります。</p> <p>(2)「にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興」については、ホームページなどを通して指導者や文化団体等の情報提供を充実させるなど、市民が芸術・文化活動に気軽に参加できる環境づくりをすすめていく必要があります。また、明治北海道十勝オーバルをはじめとした帯広の森スポーツ施設や恵まれた自然環境などをアピールし、関係団体等と連携をとりながら、引き続きスポーツ大会や合宿の誘致に取組み、市民へのスポーツ観戦機会や一流選手とのふれあいの場を提供していく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|--------------------|--------------|--------------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 青少年リーダー養成事業参加者数（人） | 208 | 288 215 | 260 |
| 学習成果の活用事例数（件） | 1 (H20) | 4 1 | 10 |
| 発表・活動の場への参加団体数（団体） | 56 | 68 56 | 65 |
| 各種スポーツ大会の観客数（万人） | 16.0 | 20.5 20.8 | 20.8 |
| スポーツ合宿団体数（団体） | 150 (H20) | 200 200 | 200 |

参考2：主な取組みの内容

◆ 社会教育施設におけるボランティア活動

図書館や百年記念館、動物園、市民文化ホールなどの社会教育施設では、市民との協働で生涯学習活動を推進していくため、ボランティアを養成し、施設のPRや展示解説、会場案内、資料の整理など、様々な分野で活躍していただいています。「帯広図書館友の会」では、おはなし会や本の修理、布の絵本の制作など、「百年記念館ボランティアの会」では、郷土学習に訪れる小中学校や各種団体に対する常設展示室の解説やレコードの整理、レコードコンサートの開催などを行っています。また、動物園では着ぐるみのグループによるミニイベントや個人レベルでのブログの開設などをしていただいています。



百年記念館ボランティアの活動
(レコードコンサート)

◆ スポーツ大会・合宿の誘致

市民に国内外のスポーツ選手との交流や質の高い競技の観戦機会などを提供し、スポーツを通じたにぎわいや交流をはかり、地域活性化につなげるため、スポーツ大会・合宿の誘致をすすめています。平成22年度は、明治北海道十勝オーバルでのスピードスケートワールドカップ帯広大会やジャパンカップスピードスケート競技大会第1戦をはじめ、帯広の森スポーツ施設などで各種大会が開催されました。また、合宿利用者数は、市のホームページでの周知や誘致活動などにより、スピードスケートを中心に増加傾向にあります。



スピードスケートワールドカップ
帯広大会

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

| | |
|---|-------------|
| 基本方向1 | 学校・家庭・地域の連携 |
| 学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に協力しながら、社会を挙げて教育を充実することができるよう、学校・家庭・地域の連携をすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| 取組みの成果 | <p>(1)「開かれた学校づくり」については、学校評議員制度を全校で実施しているほか、公開研究会や地域公開参観日など、保護者や地域住民などに授業を公開する取組みが広まってきています。</p> <p>(2)「家庭教育への支援」については、リーフレットや子育てガイドブック、子育てメール通信などを通じて、家庭教育に関する知識などの習得に必要な情報提供をすすめたほか、乳幼児健診時の「絵本との出会い事業」や、図書館において親子で読書に親しむ「胎児期からのブックスタート」事業を行うなど、読書を通じて親子がふれあう機会の充実をはかりました。また、家庭教育学級などで子育てに関する学習機会を提供したほか、地域子育て支援センターなどでの相談・支援事業とあわせて子育て家庭の交流の促進をはかったことなどから、子育て支援センター等の利用回数が目標値を達成しました。</p> <p>(3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、家庭や地域が学校を支援するしくみづくりに継続的に取り組んできた結果、教科の学習サポートや学校支援を通じた異世代交流、教育環境整備支援などの地域ボランティアによる活動が広がりをみせており、学校支援ボランティアを活用した学校数は目標値を達成しました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「開かれた学校づくり」については、学校の教育活動や運営状況などについて情報提供をすすめるとともに、児童生徒や地域の実態を踏まえた学校運営の改善をはかるため、学校評議員制度のさらなる活用に取組む必要があります。</p> <p>(2)「家庭教育への支援」については、子育てメール通信の利用率が、昨年度を上回っているものの、目標値を下回りました。インターネットから子育てに関する情報の入手が容易になっていることや高度化する通信機器への市の対応が十分でないことなどが要因となっていますが、子育てメール通信が魅力ある情報発信ツールとして活用されるよう、必要な情報をタイムリーに提供するなど、子育て家庭への支援の充実をはかっていく必要があります。</p> <p>(3)「家庭や地域による教育支援の推進」については、ボランティア・コーディネーターの育成や団体間のネットワークづくりが課題となっていることから、引き続き人材の確保・育成や学校・家庭・地域の連携を効果的にすすめるためのしくみづくりを検討していくとともに、地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の取組みを拡充していく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|-----------------------------|---------------|--------------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 子ども1人当たりの子育て支援センター等の利用回数(回) | 10.2 | 10.7 10.7 | 12.0 |
| 子育てメール通信の利用率(%) | 23.8 (H20) | 24.7 30.3 | 60.0 |
| 学校支援ボランティアを活用した学校数(校) | 2 | 24 15 | 40 |

参考2：主な取組みの内容

◆ 家庭教育学級

家庭教育学級では、子どもの健やかな成長のため、親自らの学習を通して家庭の教育力を高めることを目的に、学級生自身が学習計画をたて、様々なテーマで学習会などを行っています。平成22年度は、乳幼児学級2学級、小学学級9学級、中学学級1学級、放送利用学級1学級の合計13学級で220人が、子育てに関する講演会や料理・スポーツ・創作活動などの学習や、合同レクリエーションなどを通して交流活動を行いました。



家庭教育学級での
合同レクリエーション

◆ 学校支援地域本部事業

社会がますます複雑多様化し、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化するなか、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもたちを育てていくことが求められています。学校支援地域本部事業では、学校を支援する取組みとして、地域コーディネーターが中心となって、事業の企画運営や学校支援ボランティアの活動の調整などを行っています。平成22年度は、5つの地域本部で小中学校24校が参加し、教科のサポートや異世代交流、学校環境整備などを実施しました。



地域住民との花壇整備

| | |
|---|-------------|
| 基本方向2 | 教育を支える人材の育成 |
| 専門性や豊かな人間性などを備えた、教育を支える人材を確保するため、教員や地域の指導者などの育成に取り組みます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| 取組みの成果 | <p>(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、新学習指導要領の全面実施に向けて、教職員や学校のニーズに対応した研修機会を充実させたことなどから、教職員の1人あたりの研修受講回数が目標値を上回りました。また、学校においてミドルリーダーとなり得る、豊かな人間性をもった教師を養成するため、引き続き教員リーダー養成「21世紀教師塾」を開催し、平成22年度は延べ113名の教員が受講しました。</p> <p>(2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、「ふるさと公演」や「北の構図展」を開催し、今後活躍が期待される芸術家を対象に発表の機会を提供したほか、全国・全道の音楽コンクールやスポーツ大会に出場する青少年に対する支援や、文化賞・文化奨励賞、スポーツ賞・スポーツ奨励賞の贈呈など、芸術文化・スポーツ活動を支える人材の育成に努めました。また、平成22年度からスピードスケートの普及拡大や選手・指導者の育成などを目的とした「ほっとドリームプロジェクト」を開始するなど、スポーツ人材の育成に取り組みました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「教員の人間力・指導力の向上」については、教師自らの専門的な力量の向上に加え、幅広い視野を持った豊かな人間性が求められていることから、学校と連携して計画的な研修受講を促進していくとともに、ミドルリーダーの育成に引き続き取り組む必要があります。また、教職員への学習指導や生徒指導に関する情報提供、個人研究の支援を充実させていくとともに、各学校における校内研修体制の充実にも努めていく必要があります。</p> <p>(2)「地域の人材の発掘・育成・活用」については、地域の指導者の登録数が目標値を下回っており、指導者登録制度に関する市民周知の充実や分かりやすい情報発信に努めていく必要があります。また、市のホームページに登録し、活動内容を紹介している文化団体数は、横ばいの状態が続いており、文化団体や閲覧する市民にとってより魅力あるホームページとなるよう、公表する情報内容の充実や市民への周知を行う必要があります。さらに、スポーツ団体等の活動を引き続き支援するほか、国内有数の屋内スピードスケート場や、スピードスケート競技のメダリストなどの資源を生かし、青少年が高い目標に向かって努力することができる環境を提供していく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|------------------------------|---------|---------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 教職員1人当たりの研修受講回数(回) | 2.2 | 2.4 | 3.0 |
| | | 2.3 | |
| 地域の指導者の登録者数(人) | 138 | 107 | 190 |
| | | 145 | |
| ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数(団体) | 260 | 259 | 272 |
| | | 263 | |

参考2：主な取組みの内容

◆ 教職員の研修

児童生徒と直接ふれあう教師には、その指導技術などの専門的な力量はもちろん、自らの豊かな人間性が求められています。そのため、平成22年度は、夏季・冬季の長期休業に教員研修講座を10講座開催し、教員に研修機会を提供しました。また、教員リーダー養成「21世紀教師塾」を4回開講し、外部講師を招いての講話や、意見交換するなどの研修をすすめました。この他にも、ICT機器活用のための14回のパソコン講座や、特別支援教育の充実のための特別支援教育課題別研修講座を2回開催しました。



特別支援教育課題別研修講座

◆ ほっとドリームプロジェクト

スケートを通じて、子どもたちの夢を育て、地域全体で支えていく「ほっとドリームプロジェクト」に、平成22年度から取り組んでいます。子どもから現役を引退した選手まで、総合的なサポートを展開し、スケート資源を地元に戻元するしくみをつくり、地域の活性化につなげていくことを目指し、長野五輪金メダリストの清水宏保さんや地域の指導者の協力を得て、平成22年度は、初心者スケート教室などの底辺拡大事業や小学生を対象とした競技者育成事業「スケートキングダム」、指導者向けの講習会などを開催しました。



スケートキングダム小学生
(小学生を対象としたスケート教室)

| | |
|---|---------|
| 基本方向3 | 教育環境の充実 |
| 市民が生き生きと学ぶことができるよう、安全・安心で利用しやすく、環境負荷の低減にも配慮した教育環境の整備をすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| 取組みの成果 | <p>(1)「学校教育の環境整備」については、小中学校の耐震化を計画的に行った結果、校舎の耐震化率が目標値を上回る74.5%となりました。屋内体育館を含めた学校施設全体の耐震化率は81.0%となり、全国平均(80.3%)を上回っている状況です。また、新たな学校給食調理場基本構想を策定し、帯広市の学校給食の理念や学校給食調理場の基本方向などを示しました。</p> <p>(2)「社会教育の環境整備」については、図書館において、市民ニーズに応じた蔵書の充実や移動図書館バスの巡回箇所を増やしたことなどにより、市民1人あたりの図書等の貸出点数が目標値を上回りました。また、百年記念館のアイヌ民族文化情報センター「リウカ」のリニューアルや、市民文化ホールのリハーサル室空調設備改修、動物園の正門前広場及びホッキョクグマ舎園路改修を行うなど、施設環境の充実をはかりました。そのほか、帯広の森アイスアリーナ電灯設備の省エネルギー化改修など、環境負荷に配慮した施設整備をすすめました。</p> <p>(3)「保育・体験活動の環境整備」については、老朽化がすすんでいる保育施設の計画的な改修・修繕を行っており、周辺の宅地化による児童数の増加などに対応するため、平成24年度の豊成保育所及び豊成児童保育センターの移転改築に向けた実施設計などを行いました。また、児童会館においては、平成21年度に導入した高速度カメラや電子顕微鏡を用いた実験教室や公開講座を実施するとともに、宿泊学習の特別授業として、外部講師による実験、講演を行うなど、宿泊学習授業の充実をはかったことにより、入館者数が目標値を上回りました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「学校教育の環境整備」については、児童生徒の安全確保のため、耐震化を終わっていない学校の対策が急がれることから、早期の整備をすすめるほか、老朽化がすすんでいる学校施設・設備の計画的な整備に取り組む必要があります。また、新たな学校給食調理場については、平成22年度に策定した基本構想に基づき、建設に向けた取組みをすすめる必要があります。</p> <p>(2)「社会教育の環境整備」については、利用者サービスの向上と安全性の確保のため、施設・設備の計画的な整備や、適切で安定した管理運営をすすめるとともに、老朽化した展示物等を更新していく必要があります。</p> <p>(3)「保育・体験活動の環境整備」については、保育所や児童保育センター、児童会館において、施設の計画的な整備や耐震化をすすめる必要があります。また、児童会館において、展示品や実験器具などの設備の更新をすすめ、より魅力のある科学実験教室や公開講座を実施し、引き続き、リピーターの獲得や新たな利用者の掘り起こしをする必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|---------------------|---------------------|---------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 小・中学校校舎の耐震化率（％） | 46.5 | 74.5 | 100.0 |
| | | 50.3 | |
| 市民1人当たりの図書等の貸出点数（点） | 5.4 | 5.7 | 7.0 |
| | | 5.6 | |
| 児童会館の入館者数（万人） | 10.9 (H17-19 平均) | 11.9 | 12.0 |
| | | 11.3 | |

貸出点数は年間の点数

参考2：主な取組みの内容

◆ 新たな学校給食調理場の基本構想の策定

帯広市学校給食共同調理場運営委員会の答申、保護者はじめ市民からのご意見、市議会新学校給食調理場調査特別委員会における議論を踏まえながら、新たな学校給食調理場基本構想を策定しました。基本構想では、帯広市の学校給食の基本理念を、「豊かな地場産食材を最大限に活用し地域ぐるみで連携しながら、温もりが感じられ魅力ある学校給食づくりをすすめる」こととし、この実現に向けた新たな学校給食調理場の基本方向として、「安全・安心でおいしい学校給食の提供」「食育の推進」「食を通じた地域の連携」の3つを示しています。



現在の学校給食共同調理場

◆ アイヌ民族文化情報センター「リウカ」の改修

アイヌ民族文化情報センター「リウカ」は、映像資料や書籍でアイヌ文化について学習することができる施設です。これまでは百年記念館2階に設置されていましたが、奥まった場所に設置されていたこと、スペースが限られており団体での学習などが困難であることから、平成22年度に百年記念館1階へ移転改修を行いました。これにより、さらなるアイヌ文化の情報発信及び学習提供が可能となりました。



改修したアイヌ民族情報センター「リウカ」

| | |
|--|---------|
| 基本方向4 | 教育機会の確保 |
| 家庭の経済状況や障がいの有無などに関わらず、安心して教育を受けることができるよう、教育機会の確保に向けた取組みをすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| 取組みの成果 | <p>(1)「就学・進学への支援」については、経済的理由により修学が困難な大学生・専門学校生・高校生等に対して、修学に必要な資金の一部を貸与する奨学資金貸付を行ったほか、幼稚園就園奨励費補助、就学援助、私立高校教材教具整備事業、私立高校生授業料補助などの経済的支援を行い、子どもの教育機会の確保に努めました。また、市内高校の間口確保のため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心に、情報収集及び要請活動をすすめました。</p> <p>(2)「健やかな発達の支援」については、平成22年度は、保護者や学校からの特別支援学級の開設要望などを踏まえ、計画を前倒しし、10校で新たに設置したことから、合わせて57学級となり、特別支援学級の設置数は目標値を上回りました。また、特別支援教育支援員（助手、補助員、生活介助員）を引き続き配置したほか、小学校1校、中学校2校で身障者用トイレを改修し、障がいのある児童生徒の教育環境の充実をはかりました。このほか、特別支援教育就学奨励費、障がい者高等教育補助事業等により、特別支援学級や特別支援学校高等部などへ就学・在学している児童生徒の保護者の経済的負担軽減を行いました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「就学・進学への支援」については、厳しい経済情勢を背景として、家庭の教育費負担が依然として課題となっており、幼稚園就園奨励費補助、就学援助、私立高校教材教具整備事業、私立高校生授業料補助、奨学資金貸付事業などの経済的支援を継続していく必要があります。また、市内高校の間口が減少傾向にある中で、市内中学卒業者が進学する高校間口を確保していくため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心とした活動に引き続き取り組む必要があります。</p> <p>(2)「健やかな発達の支援」については、特別支援の対象となる児童生徒が増加する中、特別支援学級設置校の支援体制に支障が生じないように、特別支援学級の整備をすすめていくとともに、引き続き支援員を配置するなど、障がいのある児童生徒の教育環境を充実していく必要があります。また、特別支援教育を推進する校内体制の充実や、効果的な指導を行うための工夫と改善に努めるほか、障がいのある子ども一人ひとりのニーズに応じ、長期的な視点に立った支援を行うためのしくみについて、検討をすすめていく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|----------------|---------|---------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 特別支援学級の設置数（学級） | 38 | 57 | 59 |
| | | 47 | |

参考2：主な取組みの内容

◆ 高校間口対策の取組み

市内中学校卒業生が進学する高校間口の確保をはかるため、帯広市PTA 連合会、帯広市校長会、市、教育委員会等の関係者で構成する「帯広市高等学校間口対策協議会」において、必要に応じた協議、情報収集及び陳情等の活動を行っています。平成22年度は、北海道教育委員会が発表した平成25年度からの帯広緑陽高校の1間口減を内容とする「公立高等学校配置計画案」に対し、同高校の間口の現状維持を強く要望しました。



帯広市高等学校間口対策協議会
による要望書の提出

◆ 特別支援教育の充実

「特別支援教育」とは、障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うものです。平成22年度には、新たに自閉症・情緒学級を8校で開設し、小・中学校41校中35校に拡充するとともに、肢体不自由学級と知的学級をそれぞれ1校開設しました。また、介助が必要な児童生徒のために27名の生活介助員を配置したほか、発達障がいなどの学習困難を抱える児童生徒のために42名の特別支援教育補助員を配置しました。



特別支援教育補助員による
児童へのサポート場面

| | |
|--|------------------|
| 基本方向5 | よりよい教育のためのしくみづくり |
| 地域の実情に応じた、より質の高い、魅力ある教育を推進するため、よりよい教育のためのしくみづくりをすすめます。 | |

点検及び評価の結果

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| 取組みの成果 | <p>(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、各学校において、保護者などの学校関係者による評価を取り入れた学校評価により、学校運営の改善をすすめました。また、小規模特認校制度を、引き続き、清川小学校と愛国小学校で実施しました。</p> <p>(2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、小・中学校の適正配置について、国の制度改正や児童生徒数推計値の変動などから、適正配置計画の見直しを行いました。また、帯広第三中学校と帯広第六中学校の統合による翔陽中学校の開校準備や、平成24年度の豊成小学校移転改築に向けて地域住民との協議検討をすすめました。また、幼稚園、保育所、小学校、中学校の連携を促進するため、教員や保育士などで構成する幼保小中連携協議会を設置し、協議をすすめました。</p> <p>(3)「社会教育施設の利用の促進」については、百年記念館のアイヌ民族文化情報センター「リウカ」の移転改築などの施設整備や、動物園の飼育係や市民応援団のブログによる情報発信などに取り組んだ結果、社会教育施設の総利用者数は目標値を上回りました。また、百年記念館、図書館、動物園、児童会館が連携し、共通テーマにもとづくイベントや講座などを行う「社会教育施設連携アクションプログラム(4館連携事業)」を実施しました。</p> <p>(4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、地域に開かれた教育委員会づくりをすすめるため、市内6か所で教育懇談会を開催し、「学校・家庭・地域の連携」をテーマに市民との意見交換を行いました。</p> |
| 課題及び今後の方向性 | <p>(1)「魅力ある学校づくりの推進」については、保護者や学校評議員などの理解と協力を得ながら、学校評価の充実と評価結果を踏まえた学校運営の改善に引き続き努めるとともに、地域や学校の実情に応じた特色ある教育をすすめる必要があります。</p> <p>(2)「学校教育のしくみの工夫改善」については、幼保小中連携協議会において、連携の体制づくりや教職員の研修をすすめていく必要があります。小中学校の適正配置については、今後も国の制度改正や児童生徒数の推移、学校の改築時期等を見定め、対象校や実施時期を検討していく必要があります。</p> <p>(3)「社会教育施設の利用の促進」については、文化施設の利用者数が目標値を下回ったことから、市民に対し充実した情報提供をすすめるほか、文化団体の活動を支援するとともに、社会教育施設の連携などにより魅力ある学習機会の提供を行う必要があります。</p> <p>(4)「地域の実情に応じた教育行政の推進」については、市民との幅広い意見交換を行うため教育懇談会のあり方や実施方法などを検討していくとともに、教育に関する情報提供を充実させていく必要があります。</p> |

参考1：成果指標の状況

| 指 標 名 | H19 基準値 | H22 実績値 | H31 目標値 |
|------------------|---------|---------|---------|
| | | H22 目標値 | |
| 社会教育施設の総利用者数（万人） | 95.2 | 95.5 | 95.2 |
| | | 95.2 | |
| 文化施設の利用者数（万人） | 54.8 | 51.0 | 60.0 |
| | | 60.0 | |
| スポーツ施設の利用者数（万人） | 114.8 | 132.0 | 128.6 |
| | | 128.6 | |

参考2：主な取組みの内容

◆ 学校適正配置の取組み

少子化の進展を背景に学校の小規模化が進んでいることから、適正な学校規模を維持し、良好な教育環境を確保するため、平成18年度に小中学校適正配置計画を策定しました。その後、国の制度改正や児童生徒数推計の変化などから、計画期間（平成18年度～27年度）の中間年である平成22年度に計画の見直しを行いました。また、これまで準備を進めてきた帯広第三中学校と帯広第六中学校の統合により翔陽中学校が平成23年4月に開校したほか、平成24年度の豊成小学校移転改築に向けた地域協議をすすめました。



翔陽中学校開校式での
校旗授与(平成23年4月)

◆ 社会教育施設連携アクションプログラムの推進

社会教育施設4館(百年記念館・図書館・動物園・児童会館)が連携することにより、共通テーマに基づく展示等事業の実施や、効果的な情報提供をすすめるとともに、施設の利用促進をはかるため、社会教育施設連携アクションプログラム推進事業を実施しました。平成22年度は、展示等事業における連携として「おびひろからわかる?地球のようす展」「夕涼み生涯学習事業」「未来に伝える遊び体験」「植村直己展」を実施しました。また、児童会館と百年記念館が連携し、環境に関する共同調査研究を行ったほか、学校と連携した環境学習プログラムの開発に取り組みました。



「未来に伝える遊び体験」
(会場:図書館)

3 教育に関する学識経験者の意見

帯広畜産大学学長 長 澤 秀 行

帯広市の教育基本計画の個別目標及び基本方向において、それぞれの項目ごとに目標値を設定し、成果指標の達成状況を加味した点検・評価手法については、進捗状況を理解しやすく、課題も把握しやすくなっています。全体として、計画は順調に進行しており、点検及び評価は妥当であると思います。

特筆すべき点は、市図書館と学校図書館の連携や学校図書館の蔵書の充実、学校図書館ボランティアの活用などにより、小・中学校図書館の貸出冊数が増加したこと。帯広南商業高校における種々の取組みにより、就職率や検定の3種目以上1級取得率が目標値を達成したこと。子どもの居場所づくり事業が道内でも高い実施率になり、参加児童数も目標値を上回ったことなどが上げられます。また、個別目標「きずなづくり・まちづくり」、個別方向「教育環境の充実」及び「教育機会の確保」については、ほとんど全ての指標において実績値が目標値を超えていることから、課題を把握・特定し、対策・計画を遂行し、大きな成果を上げられたものと高く評価したいと考えます。

しかし、一部、特に目標値に達しなかった事項において、課題抽出が不明確なところが見受けられます。方向性については、よく理解できますが、成果が不十分であった原因を把握しなければ、目標達成は困難になるかもしれません。例えば、「グローバル化に対応した教育・学習活動の推進」については、小・中学校における英語のみによる外国語教育の充実を図ることよりも、国際理解事業や国際交流事業を通じてグローバル化に対応しようとする動機付けの方策を充実する必要があると思います。

人材育成に携わる小学校・中学校・高校の教育現場や、図書館、百年記念館、動物園、市民文化ホールなどの社会教育施設、さらには各種の文化団体やスポーツ団体に関わる皆さんが、それぞれ努力し多彩な事業を展開し、帯広市の教育基本計画に沿って成果を上げていることに敬意を表したいと思います。さらなる進展を考えれば、各組織における種々の取組みを有機的に連携させることも必要であろうと考えます。そのことが、新たな人材の発掘や育成につながり、地域の指導者の登録数増加という結果も想定されると思います。

よりよい教育のためのしくみづくりのために、今回の点検・評価を今後に充分活用し、最終目標値の達成に向けて進まれることを期待します。

元帯広市社会教育委員長 樋 渡 康

平成23年度の点検・評価に当たり、生涯学習、学校支援など、子どもや大人の学びの場に関わってきた立場から意見を申し述べます。

「次代を担う人づくり」については、各学校における学力向上に向けた学校改善プランに基づく取組みなどにより、学力・学習状況調査の全国平均との差は縮まったと報告されていますが、今後さらに市独自の施策を含めた指導の充実などが求められます。あわせて、家庭との連携した取組みが、これまで以上に必要と考えます。

また、地域ボランティアなどの協力により実施校が2校増えた「子どもの居場所づくり事業」は、成果をあげつつありますし、市図書館と学校図書館が連携しての「ぶっくーる便」など、学校図書館の充実をはかる諸事業も評価できます。

「ともに学びきずなを育む地域づくり」については、様々な分野でボランティア活動が活発に行われていることが報告されていますが、生涯学習、社会参画の観点からも、参加、養成の環境づくりが大切だと考えます。明治北海道十勝オーバルで全国、全道大会が開催され、スポーツ振興に大きな役割を果たしていますが、施設の有効利用の面からも、その他の利用を高める方策も考えていくべきでしょう。

「基本目標を達成するための基盤づくり」については、まず、学校支援地域本部事業では、小・中学校が24校参加して、教科のサポート、異年齢交流などの事業を実施しておりますが、予算、ネットワークづくり、人材確保などに悩んでいるのが実情です。支援策の充実を期待します。教育機会の確保では、特別支援教育への取組みが評価できます。特別支援学級が10校で新たに設置され、学級数、職員配置では整備されてきましたが、今後、個に応じたきめ細かい指導など、指導面での充実が必要です。

以上、報告書の主な項目について意見を申し述べましたが、全体的には、わかり易くまとめられていると感じます。

教育の取組みは、行政はもとより、学校・家庭・地域など、多くの方々の協力が不可欠です。このため、教育委員会には、今後とも、より積極的で充実した情報発信に努め、市民との意識共有をすすめられることを期待します。

参 考 资 料

平成 22 年度教育委員会の活動状況

(1) 帯広市教育委員名簿

平成23年3月31日現在

| 役職 | 氏名 | 備考 |
|----------|-------|--------------------|
| 委員長 | 田中 厚一 | 平成20年12月22日委員長就任 |
| 委員長職務代理者 | 市之川敦子 | 平成20年12月22日職務代理者就任 |
| 委員 | 門屋 充郎 | 平成20年 6月23日就任 |
| 委員 | 伊藤 成昭 | 平成20年12月21日就任 |
| 委員(教育長) | 八鍬 祐子 | 平成22年7月7日就任 |

(2) 教育委員会会議の開催状況(平成22年度)

| 期日 | 番号 | 案件 |
|--------------------|---|---|
| 第7回 平成22年4月22日 | 報告第8号 報告第9号 報告第10号 報告第11号 報告第12号 議案第24号 議案第25号 議案第26号 その他 | 小中学校の適正規模・適正配置に向けた取り組みについて 学校施設の耐震診断結果の公表について 専決処分の報告について 帯広市市民文芸誌編集委員の委嘱について 教職員の服務規律等の調査について 帯広市立学校管理規則の一部改正について 教育財産の取得申し出について 帯広市社会教育委員の委嘱について (1) 平成22年度学級編制・児童生徒数について (2) 今後の行事予定について (3) 寄附受納について |
| 第8回 平成22年5月18日 | 議案第27号 | 教職員の処分内申について |
| 第9回 平成22年5月27日 | 報告第13号 議案第28号 議案第29号 議案第30号 議案第31号 議案第32号 議案第33号 議案第34号 議案第35号 議案第36号 議案第37号 議案第38号 議案第39号 その他 | 教職員の処分について 平成22年度帯広市一般会計補正予算について 専決処分の報告並びに承認について 専決処分の報告並びに承認について 帯広市奨学生選考委員会委員の委嘱について 帯広市教育用図書選定委員会委員の任命及び委嘱について 帯広市教育研究所運営委員会委員の委嘱について 帯広市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 帯広市立高等学校の授業料等徴収条例の一部改正について 専決処分の報告並びに承認について 帯広百年記念館条例の一部改正について 専決処分の報告並びに承認について 帯広市スポーツ振興審議会委員の任命について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について |
| 第10回 平成22年6月10日 | 報告第14号 報告第15号 報告第16号 議案第40号 議案第41号 議案第42号 その他 | 活力ある学校づくり支援事業の採択結果について 中城ふみ子賞について とかちプラザ運営審議会委員の委嘱について 平成22年度帯広市教育行政執行方針について 専決処分の報告並びに承認について 帯広百年記念館運営審議会委員の委嘱について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について その他・熊出没について |
| 第11回 平成22年6月21日 | 報告第17号 議案第43号 議案第44号 その他 | 帯広市私立高等学校生徒授業料補助規則の一部改正について 平成22年度帯広市一般会計補正予算について 職員の人事について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について |
| 第12回 平成22年6月29日 | 議案第45号 | 教育委員の辞職について |
| 第13回 平成22年7月5日 | 議案第46号 議案第47号 議案第48号 | 職員の人事について 帯広市教育委員会事務局組織規則及び帯広市教育委員会職員職名規則の一部を改正する規則制定について 職員の人事について |

| 期日 | 番号 | 案件 |
|---------------------|---|--|
| 第14回 平成22年7月7日 | 報告第18号 議案第49号 議案第50号 その他 | 帯広市市民文芸誌編集委員の委嘱について 帯広市教育委員会教育長の任命について 学校給食調理場のあり方についての諮問について 新学校給食調理場調査特別委員会について |
| 第15回 平成22年7月14日 | 議案第51号 議案第52号 | 教職員処分内申について 第二期帯広市子どもの読書活動推進計画(案)について |
| 第16回 平成22年7月23日 | 報告第19号 報告第20号 議案第53号 議案第54号 議案第55号 議案第56号 議案第57号 その他 | 小中学校の適正規模・適正配置に向けた取り組みについて 教職員の処分について 帯広市立学校管理規則等の一部を改正する規則制定について 教職員の処分内申について 帯広市民文化ホール条例施行規則の一部改正について 第二期帯広市子どもの読書活動推進計画について 帯広百年記念館条例施行規則の一部改正について (1) 教員リーダー養成「21世紀教師塾」の取り組みについて (2) 帯広市議会6月定例会の報告について (3) 今後の事業予定について (4) 寄附受納について |
| 第17回 平成22年8月2日 | 議案第58号 | 帯広市内高等学校間口の現状維持に関する要望について |
| 第18回 平成22年8月6日 | 報告第21号 議案第59号 議案第60号 その他 | 南商業高等学校用教科用図書の採択について 小学校用教科用図書の採択について 中学校用教科用図書の採択について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について (3) 教科用図書の採択にかかる情報の公表について |
| 第19回 平成22年9月6日 | 報告第22号 報告第23号 議案第61号 議案第62号 その他 | 学校給食調理場のあり方についての答申について 帯広市市民文芸誌応募結果について 平成21年度帯広市一般会計歳入歳出決算認定について 平成22年度帯広市一般会計補正予算について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について (3) 緊急雇用創出推進事業の実施について (4) 六中跡施設等の整備について |
| 第20回 平成22年9月17日 | 議案第63号 議案第64号 議案第65号 議案第66号 議案第67号 その他 | 帯広市教育施策推進委員会設置規程の制定について 帯広市生涯学習推進本部設置規程の廃止について 平成22年度帯広市文化賞及び文化奨励賞の決定について 平成22年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定について 職員の人事について (1) 平成22年度教育懇談会の開催について |
| 第21回 平成22年10月25日 | 報告第24号 報告第25号 報告第26号 報告第27号 議案第68号 議案第69号 議案第70号 議案第71号 その他 | 教職員の処分について 新たな学校給食調理場基本構想(素案)について 2010 Essent ISU ワールドカップスピードスケート競技会帯広大会について 平成22年度ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点の追加利用等について 教職員の処分内申について 教職員の処分内申について 平成23年度帯広市立高等学校の入学募集について 平成22年度帯広市市民文芸賞及び帯広市市民文芸佳作賞の決定について (1) 帯広市議会9月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について |
| 第22回 平成22年11月15日 | 報告第28号 報告第29号 議案第72号 議案第73号 議案第74号 その他 | 小中学校の適正規模・適正配置に向けた取り組みについて 教職員の処分について 平成22年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 平成22年度帯広市一般会計補正予算について 帯広市教育委員会教育長給与条例の一部改正について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について その他・教育懇談会の概要報告について ・ 図書館のシステム変更に伴う休館について ・ ジュニア文芸の応募結果について |

| 期日 | 番号 | 案件 |
|---------------------|---|---|
| 第23回 平成22年12月6日 | 議案第75号 | 平成22年度帯広市一般会計補正予算について |
| 第24回 平成22年12月17日 | 報告第30号 | 新たな学校給食調理場基本構想(案)について |
| 第25回 平成22年12月22日 | 選挙執行(1) 選挙執行(2) その他 | 帯広市教育委員会委員長の選挙について 帯広市教育委員会委員長職務代理者の選挙について (1) 帯広市議会12月定例会の報告について (2) 今後の事業予定について (3) 寄附受納について その他・ジュニア文芸の応募結果について |
| 第1回 平成23年1月24日 | 報告第1号 報告第2号 議案第1号 議案第2号 その他 | 教職員の処分について 2017年第8回アジア冬季競技大会の受入れについて 審査請求について 学校管理職降任願について (1) 新たな学校給食調理場基本構想(案)におけるパブリックコメントについて (2) 今後の行事予定について (3) 寄附受納について |
| 第2回 平成23年1月31日 | 議案第1号 議案第3号 | 審査請求について 新たな学校給食調理場基本構想について |
| 第3回 平成23年2月14日 | 報告第3号 報告第4号 報告第5号 議案第1号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 議案第8号 議案第9号 議案第10号 その他 | 小中学校の適正規模・適正配置に向けた取り組みについて 平成23年度帯広市学校教育指導の重点について 平成22年度帯広市教育研究実践表彰並びに帯広市学校文化活動奨励賞について 審査請求について 平成22年度帯広市一般会計補正予算について 平成23年度帯広市教育行政執行方針について 平成23年度帯広市一般会計予算について 帯広市職員定数条例の一部改正について 教員の人事内申について おびひろグリーンステージ条例施行規則の一部改正について 帯広市学校開放事業の管理運営に関する規則の一部改正について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について |
| 第4回 平成23年3月1日 | 議案第11号 | 平成22年度帯広市一般会計補正予算について |
| 第5回 平成23年3月23日 | 議案第12号 | 職員の人事について |
| 第6回 平成23年3月24日 | 議案第13号 | 職員の人事について |
| 第7回 平成23年3月25日 | 報告6号 議案第1号 議案第14号 議案第15号 議案第16号 議案第17号 その他 | 小中学校の適正規模・適正配置に向けた取り組みについて 審査請求について 帯広市教育委員会公印規則の一部改正について 帯広市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 帯広市社会教育委員の解任について 帯広市教育委員会職員職名規則の一部改正について (1) 今後の事業予定について (2) 寄附受納について |
| 第8回 平成23年3月28日 | 議案第18号 | 職員の人事について |

・教育委員会会議開催回数 27回
議決案件 73件 うち非公開 40件
報告案件 29件 うち非公開 13件
その他 42件 うち非公開 6件

(3) 課題研究協議会開催状況 (平成22年度)

| 回数 | 開催日時 | テ - マ |
|----|-------------|--|
| 1 | 平成22年4月22日 | 国旗・国歌の取組状況について 新たな学校給食調理場施設の比較について |
| 2 | 平成22年5月27日 | 教育行政執行方針の策定について 教科用図書の選択について |
| 3 | 平成22年6月10日 | 学校給食共同調理場運営委員会への諮問内容について 教育懇談会について |
| 4 | 平成22年7月14日 | 教科用図書の採択について |
| 5 | 平成22年7月16日 | 教科用図書の採択について |
| 6 | 平成22年9月6日 | 新たな学校給食調理場の基本構想について 教育基本計画の推進等について |
| 7 | 平成22年9月17日 | 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について |
| 8 | 平成22年10月14日 | 教育懇談会について |
| 9 | 平成22年10月18日 | 新たな学校給食調理場について |
| 10 | 平成22年12月2日 | 新たな学校給食調理場について 小中学校の適正規模・適正配置について |
| 11 | 平成22年12月13日 | 新たな学校給食調理場について |
| 12 | 平成22年12月17日 | 小中学校の適正規模・適正配置について |
| 13 | 平成23年1月24日 | 審査請求について 小中学校の適正規模・適正配置について |
| 14 | 平成23年1月31日 | 小中学校の適正規模・適正配置について 新たな学校給食調理場基本構想について 審査請求について |
| 15 | 平成23年2月4日 | 小中学校の適正規模・適正配置について 平成23年度教育行政執行方針について |

(4) 研修会参加状況 (平成22年度)

| 日時 | 場所 | 研修会等 | 出席者 |
|----------------|------|---------------------------|-----|
| 平成22年8月25日・26日 | 岩見沢市 | 平成22年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会 | 2名 |
| 平成22年11月25日 | 帯広市 | 平成22年度十勝管内市町村教育委員会教育委員研修会 | 2名 |

2回 延べ4名参加

(5)行事等参加状況(平成22年度)

| 日時 | 行事名 | 出席者数 |
|----------------------------|---------------------------|------|
| 平成22年4月6日 | 教職員辞令交付式 | 1名 |
| 平成22年4月9日 | 帯広南商業高等学校入学式 | 4名 |
| 平成22年4月20日 | 帯広市体育連盟定期総会 | 2名 |
| 平成22年4月23日 | 平成22年度帯広市教育研究会結成大会 | 5名 |
| 平成22年5月29日・ 平成22年5月30日 | 市内中学校体育祭 | 9名 |
| 平成22年5月29日～ 平成22年6月6日 | 市内小学校運動会 | 17名 |
| 平成22年8月3日 | 第4回中城ふみ子賞贈呈式・講演会・祝賀会 | 4名 |
| 平成22年8月28日 | 2010「全道シニアスポーツ in 帯広」交流会 | 2名 |
| 平成22年9月12日～ 平成22年12月3日 | 市内小中学校公開研究会・式典等 | 46名 |
| 平成22年9月23日 | 帯広市功労者表彰式 | 1名 |
| 平成22年10月2日～ 平成22年11月26日 | 市内小中学校学習発表会・文化祭 | 16名 |
| 平成22年10月11日 | 平成22年度帯広市スポーツ賞・スポーツ奨励賞贈呈式 | 5名 |
| 平成22年10月25日～ 平成22年11月2日 | 教育懇談会 | 17名 |
| 平成22年11月3日 | 平成22年度帯広市文化賞・文化奨励賞贈呈式 | 4名 |
| 平成22年11月13日 | 平成22年度市民文藝受賞贈呈式 | 4名 |
| 平成22年11月15日 | ふるさと給食 | 5名 |
| 平成23年1月4日 | 帯広市新年交流会 | 4名 |
| 平成23年1月9日 | 帯広市成人の集い | 4名 |
| 平成23年1月14日 | 帯広市体育連盟新年交礼会 | 2名 |
| 平成23年1月25日 | 交流給食会 | 4名 |
| 平成23年2月10日 | ジュニア文芸賞贈呈式 | 2名 |
| 平成23年2月28日 | 平成22年度文化活動奨励賞授賞式 | 2名 |
| 平成23年3月1日 | 帯広南商業高等学校卒業式 | 4名 |
| 平成23年3月14日 | 平成22年度帯広市教育研究実践表彰 | 3名 |
| 平成23年3月15日 | 市内中学校卒業式 | 4名 |
| 平成23年3月24日 | 帯広第三中学校閉校式 | 3名 |
| 平成23年3月24日 | 帯広第六中学校閉校式 | 3名 |
| 平成23年3月31日 | 教職員辞令交付式 | 5名 |

延べ182名

平成22年度教育行政執行方針

1. 基本姿勢

少子高齢化や高度情報化、グローバル化、厳しい経済情勢や格差の存在などを背景として、教育を取り巻く社会情勢は大きく変化してきており、学力・学習意欲や規範意識、体力・運動能力などに関するさまざまな課題が指摘されています。

また、これからの教育にあっては、個々の課題への適切な対応に加え、子どもから高齢者までの人の成長を見すえながら、学校・家庭・地域など、社会を挙げて教育に取り組むことが必要とされています。

こうした状況を踏まえ、帯広市においては、平成22年3月に、多くの人々が考え方を共有し、相互に協力しながら、帯広らしい教育をすすめ、新しい時代を切り拓く人づくり・地域づくりをはかるため、第六期帯広市総合計画の分野計画として、「帯広市教育基本計画」を策定しました。

今後、計画の基本理念である、「ふるさとの風土に学び 人がきらめき 人がつながる おびひろの教育」の実現に向けて、次の三点を基本姿勢として、計画に掲げる基本目標の具体化や、基本目標を実現するための基盤づくりをすすめます。

第一に、計画の基本理念や基本目標に立ち返りながら、各種事業の目的を常に意識し、その実現に向けた取組みの改善や効果的な連携などに努めます。

第二に、学校・家庭・地域など、社会を挙げて教育に取り組むことができるよう、「対話」と「協働」を重視しながら、多くの方々との相互理解と信頼関係の醸成、計画の基本理念などの共有に努めます。

第三に、今後10年間にわたる取組みの基礎を固めるため、各分野において、事業の着実な推進はもとより、取組みを具現化していくための方策や体制づくりなどを重点的にすすめます。

2. 取組みの方向

教育基本計画では、基本理念を実現するため、二つの基本目標を掲げています。

このうち、「次代を担う人づくり」については、知・徳・体の調和が取れた自立した人づくりや、人間を尊重し自然と共生する人づくりのため、学校における指導方法の工夫・改善、及び関係機関・団体等と連携した市民の学習機会・学習情報の提供に引き続き取り組むほか、学校・家庭・地域を挙げた子どもの読書機会の充実や、誰もが気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりなどに努めます。また、帯広・十勝の豊かな自然を生かした環境教育の充実などに取り組みます。

「ともに学びきずなを育む地域づくり」については、学びを通じた協働の地域づくりに向けて、地域に関する理解の促進や、学習成果を活用した自主的活動の支援に引き続き取り組むほか、まちなぎわい・交流促進のため、スポーツ大会・合宿の誘致などに努めます。

さらに、計画では、社会情勢の変化を踏まえながら、帯広市の教育を支える基盤をより一層、強固にするため、「基本目標を実現するための基盤づくり」をすすめることとしており、学校・家庭・地域のさらなる連携や、教員や地域の指導者などの育成、耐震化をはじめとする施設整備の推進など教育環境の充実、また、家庭の経済的負担の軽減など教育機会の確保に引き続き取り組むほか、学校間の円滑な接続や、社会教育施設連携のしくみづくりなどに努めます。

このほか、帯広市教育基本計画を効果的に推進するため、分野横断的な「推進プロジェクト」に着手するほか、総合計画の政策・施策評価と整合をはかりつつ、目標の達成状況などを踏まえた総合的な評価に取り組みます。また、さまざまな機会を捉え、計画の趣旨の普及をすすめます。

なお、国においては、今年度、公立高等学校の授業料無償化を実施するほか、今後の学級編制及び教職員定数の在り方について検討を行うなど、教育制度の見直しをすすめています。

本市としては、こうした動向を見定めながら、適切な対応をすすめることとします。

3. 主な取り組み

(1) 次代を担う人づくり

知識・技能の習得

子どもの学力・学習意欲を高めるため、新しい学習指導要領に対応した小・中学校の教育課程の工夫改善や、少人数指導の充実に向けた検討などをすすめます。

市民の学習活動については、学習情報の充実をはかるほか、生涯学習フェスティバル、高齢者学級、プラザ・エンジョイスクールなど、多様な学習機会の提供に引き続き取り組みます。

帯広南商業高等学校においては、商品開発・販売に関する学習成果の発表を行う「北海道高等学校商業教育フェア」に参加するなど、実践を通じたキャリア教育に取り組みます。

また、高度情報化社会への対応をはかるため、児童生徒の情報活用能力・情報モラルを育成するとともに、関係機関等と連携して、インターネット・携帯電話の適切な利用方法に関する指導・啓発などを行います。

豊かな心の育成

小・中学校において、豊かな人間性や社会性を育てる心の教育をすすめるとともに、児童生徒の心の揺れや悩みに対するきめ細かな対応をすすめるため、生徒指導アドバイザーの配置などに引き続き取り組みます。

芸術・文化活動については、日頃の活動成果を発表する機会として、市民ギャラリー企画展や市民芸術祭を開催するとともに、市民バレエ公演の開催を支援します。また、関係機関等と連携し、ブダペスト祝祭管弦楽団公演や、大蔵流狂言・山本東次郎家帯広公演など、優れた鑑賞機会を提供します。

子どもの読書活動については、今年度、「第二期帯広市子どもの読書活動推進計画」を策定し、計画的な推進をはかります。

これに伴い、学校においては、地域ボランティアによる「学校図書館活性化支援事業」の全校への拡充や、蔵書の整備、帯広市図書館との連携に取り組むほか、新たに、家庭と連携して、読書習慣の向上の取り組みをすすめます。

さらに、帯広市図書館において、おすすめ絵本セットの貸出しや、胎児期からの読み聞かせなどを通じて、家庭での読書活動を促進します。

健やかな体づくり

学校施設の開放や地域住民が運営する「総合型地域スポーツクラブ」などを通じてスポーツへの参加機会を拡大するほか、健康に関する意識啓発のため、帯広市図書館において、健康に関する図書などの充実をはかります。

また、栄養士の学校訪問指導や「給食だより」の活用、啓発リーフレットの配布や学校における指導の充実、帯広市図書館における図書や情報の提供などにより、食育を推進します。

さらに、地場産食材の活用やふるさと給食の充実などをすすめながら、安全安心で栄養バランスのとれた学校給食を提供します。

人間を尊重し自然と共生する人づくり

国際理解教育の一環として、小・中学校において、外国人との交流などの充実をはかるほか、帯広南商業高等学校において、国際姉妹都市マディソン市への生徒派遣研修に引き続き取り組みます。

また、環境に関する教育・学習活動を推進するため、小・中学校独自の環境教育を支援するほか、社会教育施設が連携し、身近な地域から環境について考える展示などを共同で実施します。

(2) とともに学びきずなを育む地域づくり

ふるさとの理解の促進

小・中学校において、ふるさとの自然や基幹産業である農業などに触れる郷土体験学習・自然体験学習を行うほか、市民大学講座や博物館講座など、市民を対象に、地域に関する講座等を開催します。また、郷土資料の収集・保存や、歴史的遺産の保存・活用に引き続き取り組みます。

さらに、アイヌ民族の歴史・文化に関して、小学校向け教材資料を作成するとともに、百年記念館での学習機会の充実や、アイヌ民族の伝統的生活空間「イオル」の十勝圏における整備促進などに取り組みます。

きずなづくり・まちづくり

市民の学習活動を支援する生涯学習コーディネーターの活動を促進するほか、社会教育施設におけるボランティアの養成・活用に引き続き取り組みます。

また、ワールドカップスピードスケート競技会、全国高等学校選抜スピードスケート大会など、各種スポーツ大会・合宿などの開催・誘致をすすめます。

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

学校・家庭・地域の連携

学校評議員制度の活用などにより、保護者や地域住民との協力による学校運営の改善に取り組みます。

また、家庭教育を支援するため、関係団体と連携し、望ましい学習習慣・生活習慣など

について家庭への情報提供をすすめるほか、社会教育施設において、親子がふれあう多様な機会を提供します。

さらに、学校支援地域本部事業を拡充するなど、家庭や地域による教育支援の一層の推進をはかります。

教育を支える人材の育成

教員個々の自発的な研究の支援や研修成果の公開、教員リーダーの養成を目的とした「21世紀教師塾」の開催などにより、教員の人間力・指導力の向上をはかります。

また、「北の構図展」や「ふるさと公演」などを通じて、芸術・文化の人材育成をはかるほか、スピードスケートの底辺拡大と競技者育成のため、新たに、幼児期から一貫した専門的指導を行う「ほっとドリームプロジェクト」を推進することとし、しくみづくりをすすめます。

教育環境の充実

学校施設の耐震化をはかるため、啓西小学校及び帯広第一中学校の屋内体育館を改築するほか、校舎・屋内体育館の耐震化に向けた実施設計等を行います。また、平成23年度の翔陽中学校開校に向けて、現帯広第三中学校の増築及びグラウンドの実施設計を行うほか、豊成小学校の移転改築工事に着手します。

さらに、学校給食調理場改築に向けて、基本構想を策定します。

児童生徒の総合的な安全対策としては、PTAや町内会、関係団体などが一体となって行う見守り活動を、引き続き支援します。

図書館においては、蔵書の充実をはかるとともに、休館日の在り方などを含め、サービス向上についての検討をすすめます。

百年記念館においては、アイヌ民族文化情報センター「リウカ」を改修し、学習環境の充実をはかります。

動物園においては、正門前広場の改修や周辺環境整備を行うほか、動物に関する研究や環境教育の充実・促進などをはかるため、帯広畜産大学との連携を強化します。

体育施設については、施設・設備の改修を行うほか、帯広の森の施設について省エネルギー化をすすめます。また、以平農村公園などのパークゴルフ場において、同好会など地域の方々と協力しながら適正な管理をすすめます。

教育機会の確保

家庭の経済的負担を軽減するため、帯広南商業高等学校の授業料を無償化するとともに、私立高等学校授業料補助や就学援助を引き続き実施します。また、高等学校の間口の確保に向けて、関係団体などと連携した要請活動などに引き続き取り組みます。

さらに、子どもたちの健やかな発達を支援するため、情緒障害学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）及び肢体不自由学級を拡充します。

よりよい教育のためのしくみづくり

学校評価の実施とその結果の積極的な公開・情報提供をすすめるとともに、創意工夫を生かした学校づくりに引き続き取り組みます。

また、幼・保・小・中の連携に関する検討をすすめるほか、帯広南商業高等学校と近隣中学校との情報交換や交流などに取り組みます。

さらに、社会情勢の変化や児童・生徒数の推移、国の動向などを見定めつつ、小中学校適正配置計画の見直しを行います。

社会教育施設においては、より質の高いサービスや新たな魅力ある学習機会を提供するため、社会教育施設の連携のしくみづくりをすすめます。

なお、開かれた教育委員会を目指し、引き続き「教育懇談会」を開催することとします。

平成 22 年度予算決算

(単位：円)

| 科 目 | 最終予算額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 主な内容 |
|--------|---------------|---------------|---------------|--|
| 教育費 | 9,511,857,320 | 7,783,310,961 | 1,567,014,000 | |
| 教育総務費 | 218,390,000 | 200,319,967 | 0 | |
| 教育委員会費 | 5,306,000 | 5,293,960 | 0 | 教育委員報酬及び会議等の出席に係る旅費等 |
| 事務局費 | 106,488,000 | 91,433,759 | 0 | 事務局運営費、教職員管理費、奨学資金貸付金等 |
| 指導研修費 | 81,681,000 | 78,845,562 | 0 | 教育相談員・生徒指導専門指導員・外国人講師派遣に係る報酬等 |
| 教育研究所費 | 20,159,000 | 20,036,006 | 0 | 所員報酬、教育研究所運営費等 |
| 教職員住宅費 | 4,756,000 | 4,710,680 | 0 | 教職員住宅の修理費等 |
| 小学校費 | 4,054,513,000 | 2,504,032,105 | 1,514,285,000 | |
| 学校管理費 | 597,661,000 | 582,938,785 | 0 | 小学校管理費、プール・リノ造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等 |
| 学校営繕費 | 61,217,000 | 59,986,165 | 0 | 学校営繕費 |
| 教育振興費 | 265,950,000 | 253,090,539 | 11,500,000 | 教材教具購入費、就学援助費、学校図書整備費、教育環境デジタル化推進費等 |
| 施設整備費 | 365,940,000 | 134,940,382 | 224,300,000 | 学校備品・設備整備費、リニューアル改修事業費、耐震化事業費等 |
| 学校建設費 | 2,763,745,000 | 1,473,076,234 | 1,278,485,000 | 校舎・屋体整備費（豊成小移転改築、啓西小体育館改築等） |
| 中学校費 | 1,657,458,000 | 1,615,340,739 | 18,496,000 | |
| 学校管理費 | 272,450,000 | 272,135,405 | 0 | 中学校管理費、リノ造成・維持管理費、学校保健事業費、スクールバス運行事業費等 |
| 学校営繕費 | 45,379,000 | 45,086,678 | 0 | 学校営繕費 |
| 教育振興費 | 203,164,000 | 194,034,770 | 8,500,000 | 教材教具購入費、就学援助費、学校図書整備費、教育環境デジタル化推進費等 |
| 施設整備費 | 504,632,000 | 485,752,827 | 9,996,000 | 学校備品・設備整備費、リニューアル改修事業費、耐震化事業費等 |
| 学校建設費 | 631,833,000 | 618,331,059 | 0 | 校舎・屋体整備経費（翔陽中校舎増築、第一中体育館改築等） |
| 高等学校費 | 80,618,000 | 77,598,079 | 0 | |
| 学校管理費 | 54,702,000 | 52,352,336 | 0 | 南商管理費、学校保健事業費、外国人英語指導助手報酬等 |
| 学校営繕費 | 1,320,000 | 1,271,648 | 0 | 南商営繕費 |
| 教育振興費 | 24,596,000 | 23,974,095 | 0 | 教材教具購入費、学習環境管理費、キャリア教育推進費等 |

| 科 目 | 最終予算額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 主な内容 |
|------------|---------------|---------------|------------|--|
| 社会教育費 | 992,540,320 | 956,150,453 | 12,771,000 | |
| 社会教育総務費 | 17,913,000 | 16,688,665 | 0 | 生涯学習相談員、社会教育委員等報酬、講座開催経費等 |
| 文化振興費 | 27,033,803 | 26,777,776 | 0 | 文化団体等補助金、事業開催負担金、文化財経費等 |
| とかちプラザ費 | 227,358,000 | 219,801,385 | 0 | とかちプラザ管理費 |
| 市民文化ホール費 | 237,520,000 | 235,991,565 | 0 | 市民文化ホール管理運営費、修繕・改修経費、機器類更新リース料等 |
| 百年記念館費 | 85,977,000 | 71,918,023 | 10,771,000 | 百年記念館管理運営費、学芸研究員等報酬、講座開催経費、施設修繕・改修費等 |
| 図書館費 | 234,904,000 | 227,759,770 | 2,000,000 | 図書館管理運営費、図書資料等整備費、郷土資料関連経費等 |
| 動物園費 | 134,202,127 | 130,604,155 | 0 | 動物園管理運営費、遊具管理費、施設修繕・改修費等 |
| 市民ギャラリー費 | 27,632,390 | 26,609,114 | 0 | 市民ギャラリー管理費 |
| 保健体育費 | 2,508,338,000 | 2,429,869,618 | 21,462,000 | |
| 保健体育総務費 | 82,295,000 | 77,025,081 | 0 | スポーツ行事・活動関係経費、団体育成・大会開催費、学校開放経費、指導者養成経費等 |
| 体育施設費 | 1,458,779,000 | 1,393,419,060 | 18,784,500 | 社会体育施設管理運営費、施設修繕・改修費等 |
| 学校給食共同調理場費 | 967,264,000 | 959,425,477 | 2,677,500 | 学校給食共同調理場管理費、賄材料費、委託料等 |

翌年度繰越額は、継続費及び繰越明許費

○ 平成22年度における主な取組み一覧

(1) 次代を担う人づくり

① 知識・技能の習得

| 展開方策 | 主な取組み |
|----------------------|---|
| 子どもの学力・学習意欲を高める教育の推進 | 活力ある学校づくり支援事業（豊かな学び支援27校、環境教育支援14校）、外国人講師派遣（小中学校）、少人数指導推進協議会の設置、ドリル型データベース教材開発、外国人英語指導助手配置（南商）、家庭学習の啓発、学校改善プランの取組み推進、子ども向け講座等（図書館、百年記念館、動物園、児童会館等） |
| 個人や社会のニーズに応じた学習活動の推進 | 学習情報の提供（動物園飼育員ブログ等）、プラザエンジョイスクール（2,066人）、放送大学帯広学習室（207科目）、生涯学習フェスティバル（29,250人）、高齢者学級（2学級、137人）、わかば会（9地区）、コミュニティ講座（211講座、16,794人）、百年記念館博物館講座（459人）、百年記念館創造活動センター講座、地域防災訓練（第五中）、冬季防災訓練（広陽小）、防災セミナー、自主防災組織育成事業（防災講演会、防災研修講師派遣、防災リーダー研修会）、応急手当普及講習（6,864人）、自主防火組織・事業所等に対する防火活動（64,448人）、幼年消防クラブ育成（39クラブ、3,048人）、市民防災フェスティバル（2,460人）、防犯グッズ展、交通安全教室（347件、35,249人）、消費者講座・講演会（7回、314人）、地域消費者講座（10回、431人）、消費者被害予防教育（7校、15回、1,671人）、消費生活展（5,020人） |
| 職業に関する教育・学習活動の推進 | 南商インターンシップ事業（39事業者）、北海道高等学校商業教育フェア参加、事業所派遣外部講師の受入れ |
| 高度情報化に対応した教育・学習活動の推進 | 研究紀要「帯広の子どもの学力」発行、ビデオ教材・データベース作成、校内LANの活用、教育用パソコン（1,685台）の活用、大型デジタルテレビ（114台）の活用 |

② 豊かな心の育成

| 展開方策 | 主な取組み |
|------------|---|
| 子どもの社会性の育成 | 郷土体験学習（小学4年生対象）、自然体験学習（中学2年生対象）、適応指導教室の運営、生徒指導専門員・教育相談員の配置、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会の設置（53名）、心の教室相談員（10名）・家庭訪問相談員（2名）・スクールソーシャルワーカー（3名）の |

| | 配置、 教育相談センター運営 、南商におけるボランティア活動の推進（34クラブ）、 放課後子ども教室・広場 （15校、延べ17,477人）、土曜あそびの森の実施（13校、延べ3,581人）、 中学生からのメッセージ事業 、 大人の集い （1,219人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（253名）、ジュニアリーダー養成講座（年12回）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（5名）、こども王国の開催（800名）、十勝こども雪合戦（62チーム、360名）、 児童会館での体験活動 （宿泊学習2,923人、出前講座1,043人、文化事業6,970人）、 青少年センター事業 （巡回指導、声かけ指導、ヤングテレホン相談等）、子ども相互派遣事業（徳島市7人、松崎町10人） |
|------------------|---|
| 展開方策 | 主な取組み |
| 豊かな情操の育成と生きがいづくり | 学校図書館活性化支援事業（小26校、中15校）、学校図書館土曜開放事業（小5校）、学校図書購入（小4,936冊、中3,218冊）、図書館・学校連携事業（ぶっくーる便284件、ピックナウマン便4件、学校図書館クリニック3回）、絵本セットの貸出し（保育所・幼稚園むけ3件、年齢別578件）、おはなし会（2,652人）、映画会（840人）、子ども図書館のつどい（314人）、おびひろ市民芸術祭、帯広市民パレエ公演「くるみ割り人形」、北の構図展、とかちサークル写真展、全十勝書道作品展、ふるさと公演、 帯広市文化賞文化奨励賞 、市民文藝（第50号・50号別冊）・ジュニア文芸（第1号）発行、劇団四季鑑賞事業、中高・専門学校生対象ミュージカル鑑賞（オフブロードウェイミュージカル）、ブダベスト祝祭管弦楽団演奏会、札幌交響楽団特別演奏会、第22回親と子のわくわく音楽会、小曾根真ジャズピアノリサイタル、ニューイヤーコンサート、帯広美術館特別企画展共催（ミロ展） |

③ 健やかな体づくり

| 展開方策 | 主な取組み |
|--------------------|---|
| 健やかな体を育むスポーツ活動等の推進 | スポーツ教室・講習会 （79回）、 総合型地域スポーツクラブの育成・支援 （3団体）、帯広市体育指導委員の活動（129回、参加者4,197人）、地域スポーツ振興事業（3事業、4,550人）、中学生カーリング教室、スポーツ少年団活動支援、 出前健康教室 （4,155人）、 健康づくり講座 （508人）、特定高齢者介護予防事業（865回、延べ7,791人）、 ひろびろ元気教室 （64回、延べ417人）、 いきいき温泉事業 （135回、延べ2,542人）、 認知症サポーター養成講座 （養成数1,017人） |
| 食育の推進と学校給食の充実 | ふるさと給食 （5日）、 食育レシピ集の作成 （小中学校保護者用）、食育講演会（1回）、農業技術センター展示ほ場見学受入（17校、1,165人）、 帯広っ子農業体験学校 （14組32人）、学童農園（21団体、2,166人）、大平原交流センター農業体験事業（9組18人）、 食育出前教室 （6 |

| | |
|--|---|
| | 校、407人)、親子料理教室(1回)、食育フェスティバル(1回)、食育に関するアンケート実施、保育所での食育ミニ講座(133名)、保育所給食試食会(679名)、保育所でのおやこ料理教室(75名) |
|--|---|

④ 人間を尊重し自然と共生する人づくり

| 展開方策 | 主な取組み |
|----------------------------|---|
| 人権・福祉・男女共同参画に関する教育・学習活動の推進 | 高齢者虐待防止研修会(1回、85名)、児童虐待防止推進月間パネル展、児童虐待防止啓発用携帯カード作成(26,000枚)、ノーマライゼーション推進地区(4地区)、障がい者団体支援(2団体)、男女共同参画セミナー(1回、250人)、女と男の一行誌募集・展示(応募総数1,148作品、549人)、男女共同参画情報誌の発行(2回)、男女共同参画講座(2回、52人)、社会参画支援講座(2回、60人)、デートDV予防講座(1回、402人)、デートDV予防リーフレット(2,000部)、デートDVパンフレット(3,000部)、DV防止リーフレット(3,000部)、DV防止パンフレット(1,500部)、ユニバーサルデザイン教室(2回、98人) |
| グローバル化に対応した教育・学習活動の推進 | 南商での外国人英語指導助手配置(1人)、外国人講師派遣(小中学校)、国際交流員の学校訪問事業(102時間)、南商生マディソン市派遣研修(生徒6名、引率教員1名)、高校生相互派遣事業(スワード市3人、朝陽市4人) |
| 環境に関する教育・学習活動の推進 | 環境教育の推進に関する調査研究、児童会館での科学実験教室・公開講座等(118回、6,604人)、出前環境教室(19回、858人)、環境にやさしい活動実践校新規認証(3校)、ごみ懇談会(13回、377人)、エコエコ紙芝居(15回、639人)、「帯広の森・はぐくむ」での観察会・森づくり体験・木工など(57回)、市民植樹体験会(474人) |

(2) ともに学びきずなを育む地域づくり

① ふるさとの理解の促進

| 展開方策 | 主な取組み |
|---------------|--|
| 子どものふるさと教育の推進 | 郷土体験学習(小学4年生対象)、自然体験学習(中学2年生対象)、アイヌ民族文化理解促進指導用教材作成 |
| 地域に関する学習活動の推進 | 地域の学習情報・指導者情報のホームページでの提供、市民大学講座(34講座・15ゼミ、1,173人)、第29回郷土美術展(965人)、移動展「北海道を描いた作家たちの世界」(2,450人)、郷土学習見学会(2回)、史跡標示板の設置・修繕、百年記念館収蔵絵画修復、百年 |

| | |
|--|--|
| | 記念館埋蔵文化財センターの活用、発掘調査デジタル化、図書館ふるさと再訪（17人） |
|--|--|

② きずなづくり・まちづくり

| 展開方策 | 主な取り組み |
|--------------------------|---|
| まちづくりへの参画を促進する教育・学習活動の推進 | 中学生からのメッセージ事業、成人の集い（1,219人）、地域子ども会リーダー宿泊研修会（253名）、ジュニアリーダー養成講座（年12回）、ジュニアリーダー「あるふあの会」（5名）、南商におけるボランティア活動の推進（34クラブ）、生涯学習コーディネーターの支援、語り手育成講習会（6回）、製本講座（2回）、解説ボランティアの養成（百年記念館）、帯広畜産大学生ボランティア・着ぐるみ等自主ボランティア受入れ（動物園） |
| にぎわいや交流を促進する文化・スポーツの振興 | おびひろ市民芸術祭、北の構図展、とかちサークル写真展、全十勝書道作品展、スポーツ大会開催（35大会）、日韓交歓交流競技大会（2種目）、スポーツ合宿誘致（200団体）、スピードスケートワールドカップ帯広大会、プロ野球公式戦、北海道十勝オープンテニストーナメント、帯広の森屋内スピードスケート場のナショナルトレーニングセンター指定 |

(3) 基本目標を実現するための基盤づくり

① 学校・家庭・地域の連携

| 展開方策 | 主な取り組み |
|-----------------|---|
| 開かれた学校づくり | 学校図書館土曜開放事業（小5校）、地域開放学校数（29校）、学校評議員設置（全小中学校）、新任学校評議員研修会、土曜あそびの森の実施（13校、延べ3,581人）、南商学校開放講座等数（1講座4日間）、南商生による近隣小学校での英語授業 |
| 家庭教育への支援 | 地域子育て支援センターの運営（6か所）、子育てガイドブックの作成（2,000部）、あそびの広場（210回、延べ3,643人）、サンデーパパ（24回、延べ984人）、こんにちは赤ちゃん訪問（611人）、小中学生の保育体験・ボランティア（24か所）、高校生と幼児の交流・保育ボランティア（12か所）、町内会・老人クラブとの交流（33回）、家庭教育学級（13学級）、絵本との出会い事業（配付児童数1,365人）、子育て応援事業所登録制度（130事業所） |
| 家庭や地域による教育支援の推進 | 学校支援地域本部設置（5本部、小中24校参加）、学校支援ボランティア地域コーディネーター研修会（3回）、子どもの見守り活動実施校 |

| | |
|--|---|
| | (41校)、子ども110番の家設置(1,277件)、放課後子ども教室・広場(15校、延べ17,477人)、土曜あそびの森の実施(13校、延べ3,581人) |
|--|---|

② 教育を支える人材の育成

| 展開方策 | 主な取組み |
|---------------|--|
| 教員の人間力・指導力の向上 | 教員リーダー養成「21世紀教師塾」(延べ113名)、個人研究サポート(4人)、体験研究サポート(6人)、地域教材研究サポート(4人)、パソコン研修講座(20回、689人)、個人研究サポートシステム、中央教育課題思潮等調査研究事業、全道教科担当指導主事研究協議会・いじめなど対策本部全道会議参加、帯広市特別支援教育研究大会紀要発行、教育課程検討委員会開催、帯広市教育研究会事業補助、教育研究実践表彰・学校文化活動奨励賞授賞、公開研究会実践校への補助、小中学校情報教育専門員派遣、幼稚園教諭・保育所保育士合同研修(1回) |
| 地域人材の発掘・育成・活用 | ふるさと公演、帯広市文化賞・文化奨励賞、スポーツ指導者の講習会・研修会(4回)、競技力育成選手強化事業(20団体)、少年団指導者認定講習会(2回)、全国・全道大会派遣補助(140件)、ほっとドリームプロジェクトの展開(スケート競技振興)、帯広市体育連盟活動支援、スポーツ大会派遣支援 |

③ 教育環境の充実

| 展開方策 | 主な取組み |
|--------------|---|
| 学校教育の環境整備 | AED全小中学校設置(継続)、校舎改築工事(1校)、校舎耐震補強・増築工事(1校)、屋内体育館改築工事(2校)、校舎耐震化実施設計(16校)、学校リニューアル改修事業(20校)、新たな学校給食調理場基本構想策定、子ども安全ネットワークの運用・改善 |
| 社会教育の環境整備 | アイヌ民族文化情報センター「リウカ」移転改修、百年記念館多目的トイレ整備、動物園正門前広場改修、動物園キリンのブリーディングローン(繁殖のための動物貸借)、動物園における帯広畜産大学との連携、とかちプラザレインボーホール音響卓更新、図書館蔵書の充実(450,470冊)、移動図書館バスの運行、市民文化ホールリハーサル室空調設備改修、帯広の森アイスアリーナ冷却塔改修・電灯設備省エネルギー化改修、帯広の森体育館駐車場太陽光発電蓄電式LED照明設置、帯広の森市民プール地中熱利用ヒートポンプ導入 |
| 保育・体験活動の環境整備 | 豊成保育所移転改築実施設計、豊成児童保育センター移転改築実施設計、児童保育センター分室設置(1か所)、児童会館施設修繕(もっくん広場など) |

④ 教育機会の確保

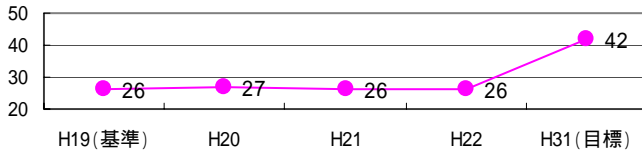
| 展開方策 | 主な取組み |
|-----------|--|
| 就学・進学への支援 | 私立高校整備費助成（2校）、 就学援助支給 （小 2,268名、中 1,264名）、 私立高校生授業料補助 （203人）、 奨学資金貸付 （92人）、 幼稚園就園奨励費支給 （1,619人）、私立幼稚園教育振興費補助（15園）、高校間口対策推進事業による要望書提出 |
| 健やかな発達の支援 | 就学相談・指導（253件）、帯広市特別支援教育研究大会紀要印刷、特別支援教育補助員配置（42名）、生活介助員配置（27名）、特別支援学級開設（自閉症・情緒学級8校、肢体不自由学級1校、知的学級1校）、身障者用トイレの設置（3校）、保育所における障がい児受入（全認可保育所）、幼児ことばの教室（134人）、発達支援センター（263人）、肢体不自由機能訓練事業（19組） |

⑤ よりよい教育のためのしくみづくり

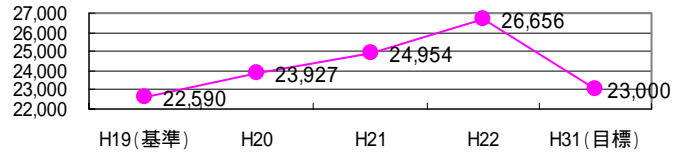
| 展開方策 | 主な取組み |
|------------------|--|
| 魅力ある学校づくりの推進 | 特色ある学校づくり（全小中学校）、 小規模特認校制度 （2校） |
| 学校教育のしくみの工夫改善 | 幼保小中連携協議会（2回）、幼保小連携研修交流事業（6回）、 学校適正配置計画の見直し 、 学校適正配置に関わる地域協議 |
| 社会教育施設の利用の促進 | 社会教育施設連携アクションプログラム（4館連携事業）、学習情報の提供（ 動物園飼育員ブログ 等）、スポーツ活動に関するホームページでの情報提供（4項目） |
| 地域の実情に応じた教育行政の推進 | 教育懇談会 （6か所） |

成果指標の推移

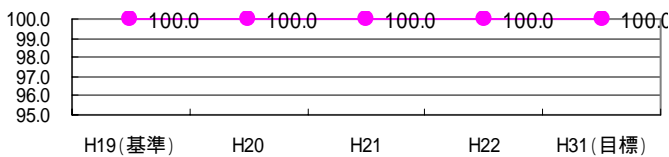
個別目標 1 - 1 : 知識・技能の習得



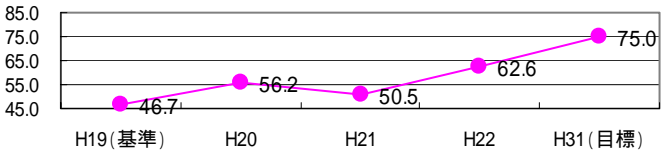
参考図 1 . 標準学力検査の目標基準到達観点数



参考図 2 . 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数

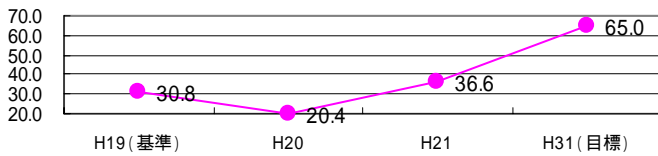


参考図 3 . 帯広南商業高等学校の就職率

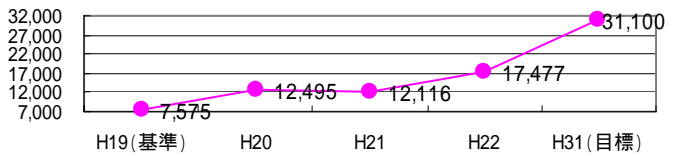


参考図 4 . 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率

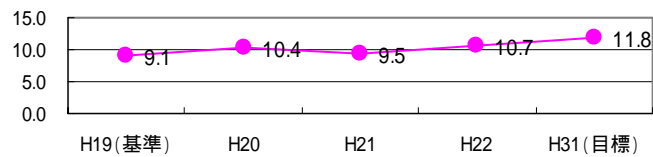
個別目標 1 - 2 : 豊かな心の育成



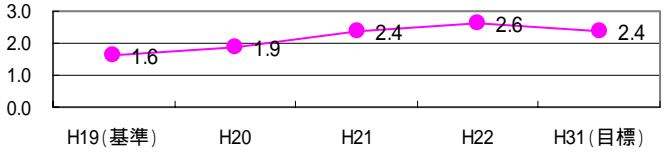
参考図 5 . 不登校生徒の復帰率



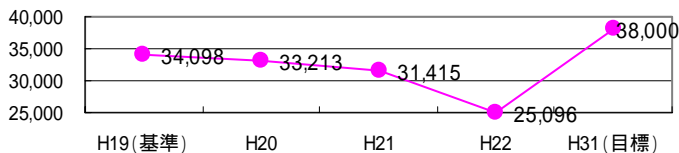
参考図 6 . 子どもの居場所づくり参加児童数



参考図 7 . 小学校図書館の児童1人当り貸出冊数

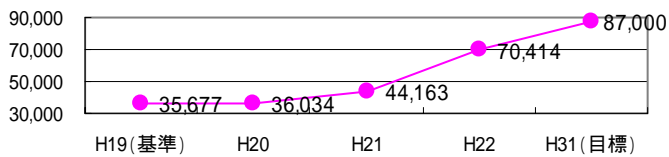


参考図 8 . 中学校図書館の生徒1人当り貸出冊数

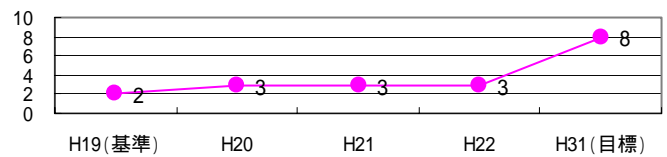


参考図 9 . 鑑賞事業の入場者数

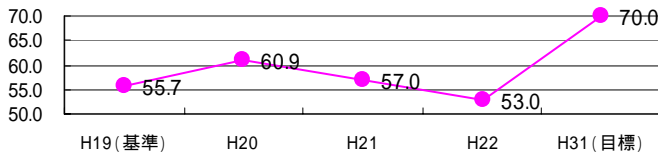
個別目標 1 - 3 : 健やかな体づくり



参考図 10 . スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数

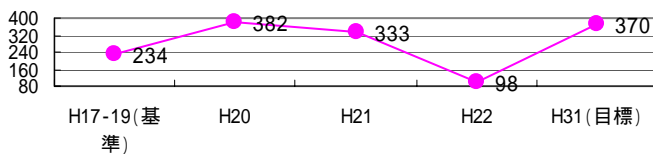


参考図 11 . 総合型地域スポーツクラブの設置数

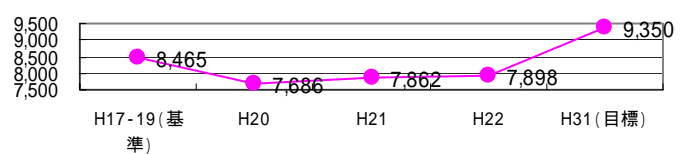


参考図 12 . 学校給食における地場産野菜の導入率

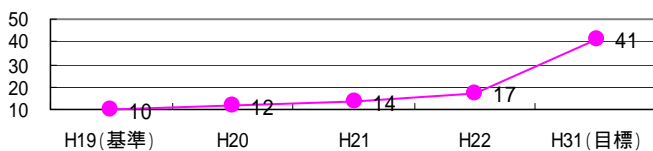
個別目標 1 - 4 : 人間を尊重し自然と共生する人づくり



参考図 13 . UDに関する講座等への参加者数

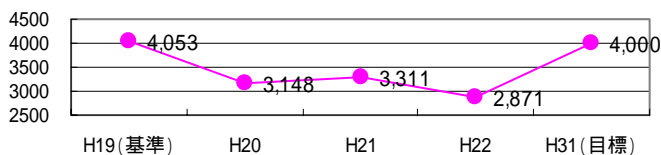


参考図 14 . 国際理解推進事業・国際交流事業の参加者数



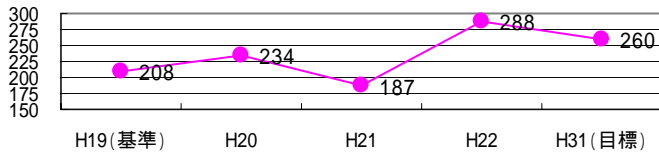
参考図 15 . 環境にやさしい活動実践校数

個別目標 2 - 1 : ふるさとの理解の促進

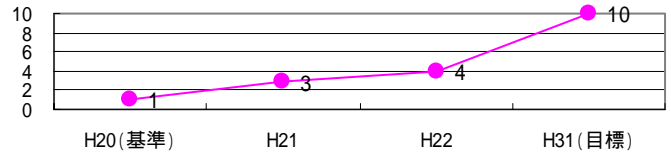


参考図 16 . 地域について学ぶ講座等への参加者数

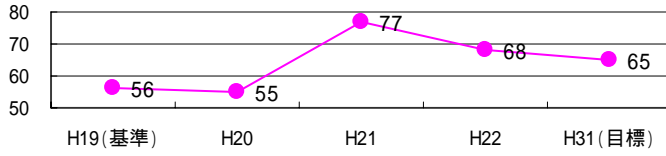
個別目標 2 - 2 : きずなづくり・まちづくり



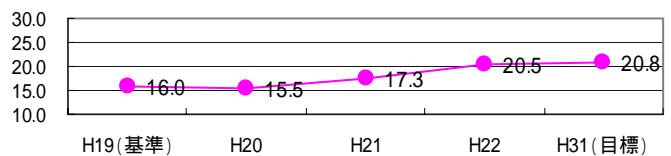
参考図 17 . 青少年リーダー養成事業参加者数



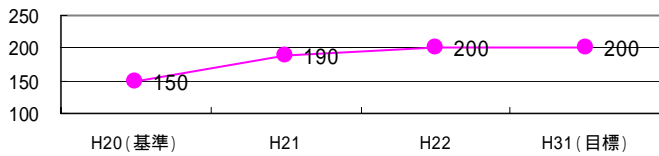
参考図 18 . 学習成果の活用事例数



参考図 19 . 発表・活動の場への参加団体数

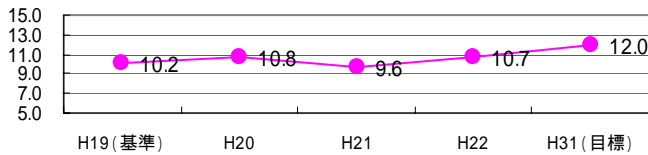


参考図 20 . 各種スポーツ大会の観客数

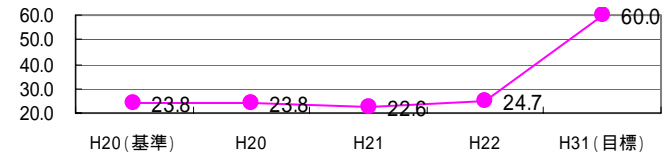


参考図 21 . スポーツ合宿団体数

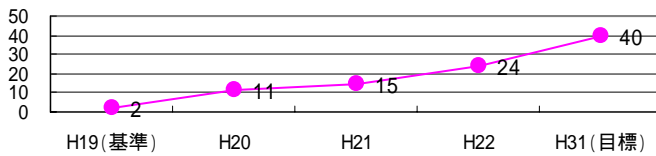
基本方向 1 : 学校・家庭・地域の連携



参考図 22 . 子ども 1 人当たりの子育て支援センター等の利用回数

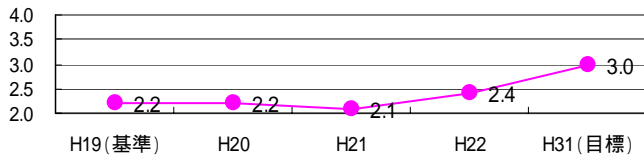


参考図 23 . 子育てメール通信の利用率

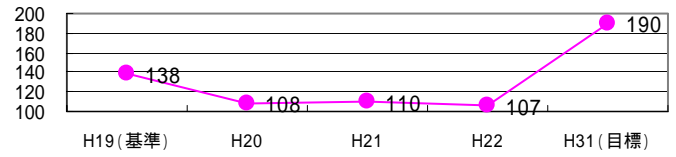


参考図 24 . 学校支援ボランティアを活用した学校数

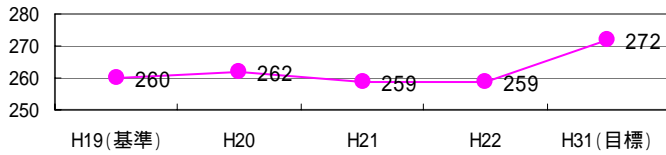
基本方向 2：教育を支える人材の育成



参考図 2 5 . 教職員 1 人当たりの研修受講回数

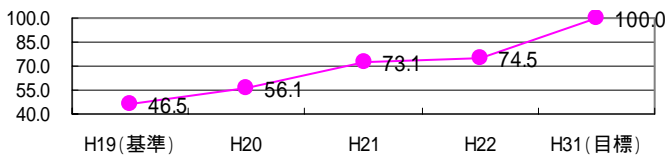


参考図 2 6 . 地域の指導者の登録者数

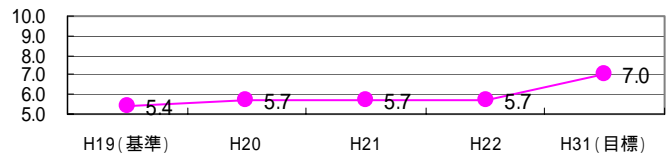


参考図 2 7 . ホームページで芸術・文化活動を紹介
する文化団体数

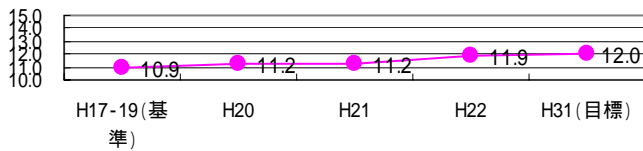
基本方向 3：教育環境の充実



参考図 2 8 . 小・中学校校舎の耐震化率

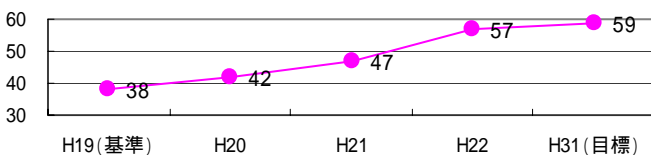


参考図 2 9 . 市民 1 人当たりの図書等の貸出点数



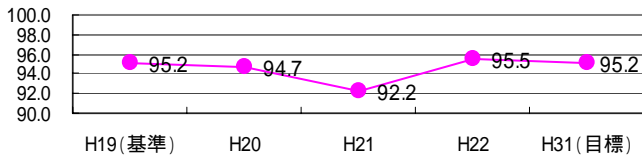
参考図 3 0 . 児童会館の入館者数

基本方向 4：教育機会の確保

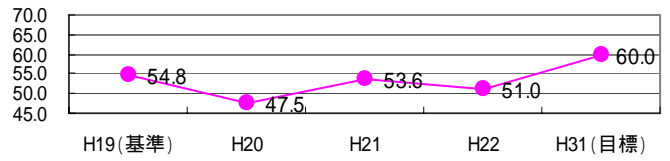


参考図 3 1 . 特別支援学級の設置数

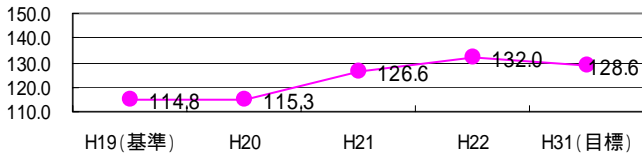
基本方向5：よりよい教育のためのしくみづくり



参考図3 2．社会教育施設の総利用者数



参考図3 3．文化施設の利用者数



参考図3 4．スポーツ施設の利用者数